學　報

Kobe　College　Bulletin

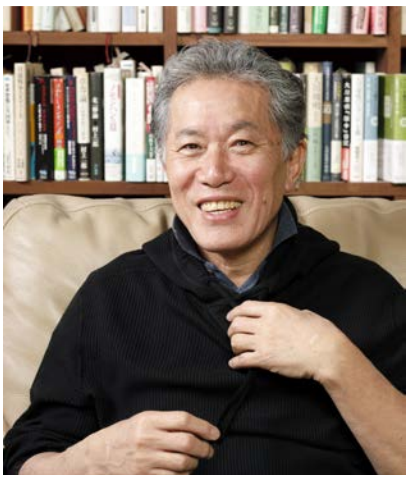
ISSN0389－164X

NO. 201

2026. 7 .14
神戸女学院
学報委員会

ご挨拶

理事長　内田　　樹



このたび図らずも理事長を拝命することになりました。まさか75歳になって、ふたたびスーツを着て、ネクタイを締めて「出勤」する身になるとは思ってもいませんでした。

60歳の時に早期退職させていただいたのは、会議に出ることにうんざりしていたからでした。教務部長になった時に、課長から「出る会議のリスト」を渡されました。「いくつあるんですか？」と訊いたら「47です」と言われて気が遠くなった覚えがあります。それから６年間「会議の人」として過ごし、さすがに「もう、だめ」となって退職したのでした。

退職した年、2011年秋に神戸市に凱風館という道場兼自宅を建てました。俗世から離れ、稽古と執筆に専念して涼しく余生を過ごすつもりでした。ところが、世情穏やかでなく、やむなく「学者の会」の旗を掲げて国会前で演説をしたり、SEALDs の若者たちとデモに行ったり、慨世の文を草するようになったり、気がつけば日々連載に追われ、年に何冊も本を出し、講演に飛び歩く「火宅の人」となり果てておりました。

加えて今般は理事長拝命という「青天の霹靂」的事態を迎えました。人生思い通りにはゆかないものです。でも、「こんなはずではなかった」と長嘆することにはもう慣れております。「これも天命」と思っておとなしくお引き受けすることにいたしました。

20代で起業して会社を経営し、転じて大学管理職となり、今は５人の書生を雇用する道場主ですので組織運営について多少の経験はあります。私が経験から学んだのは、組織は性善説に基づいて運営するのが最も効率的だということです。

組織の成員たちを「機会があれば権限を私的に用い、公共財を私腹に収めようとする人」とみなして性悪説で組織を運営すると膨大な管理コストを要します。でも、いくら厳密に管理しても、そこからは価値あるものは何も生まれません。

それよりは、「みんな善い人」という初期設定で組織運営した方が費用対効果は圧倒的に高い。もちろん集団の足をひっぱる人はどんな集団にもいます。根絶することはできません。でも、それには構わず、「善き人」たちが気分よく働いて集団のパフォーマンスが向上するように環境を整える方がずっと合理的です。そんな気楽な学舎を創りたいと思っています。みなさん、どうかご協力ください。

院長就任の辞

院長　中野　敬一

このたび、飯謙先生の後任として院長を拝命いたしました。神戸女学院の長い歴史を思いますと、身に余る光栄であり、その責任の重さを深く感じております。本学院を支えてこられた先人の思いを胸に、築き上げられた良き伝統を継承し、さらに発展させるべく努めてまいる所存です。

現代社会は、価値観や生活様式が大きく変化する時代を迎えています。教育の現場においても、その変化に応じた方針や取り組みが求められていますが、一方で、時代の移ろいに左右されることなく、建学の理念と精神を確かに受け継ぐことこそ、最も重要な責務であると考えております。変化への柔軟な対応と、揺るぎない理念の保持という二つの営みを、これからも丁寧に両立させてまいります。

本学院の創立者をはじめとする宣教師たちは、学院の永久標語である「愛神愛隣」をその生涯を通して体現しました。彼女たちは自己の利益を求めるのではなく、困難にある人々に寄り添い、その「隣人」は身近な者にとどまらず、遠く離れた地に生きる人々にも広がることを示しました。

その精神を象徴する存在として、創立者タルカット先生とダッドレー先生が挙げられます。お二人は明治期の開国直後、なおキリスト教への不安が残る時代に来日されました。不安を抱えながらの渡航であったことでしょうが、長く日本に滞在し、人々に寄り添い続けました。とりわけタルカット先生は日本で生涯を終えられ、日本に人生を捧げられた存在として、その献身の深さを示しています。このように、自国を離れ異国の地に赴き、人々のために尽くした宣教師たちの姿勢は、本学院が重んじてきた「国際性」の形成に大きな影響を与えたものといえます。

また、困難にある人々を理解するためには、多角的に物事を見る視点が不可欠です。それを可能にするのがリベラルアーツ教育であり、偏見から自由になり柔軟に思考する力は、新たな隣人との出会いを生み出します。

女子教育もまた、創立以来一貫して実践されてきた学院の伝統です。タルカット先生が、うつむいて歩く女性たちに「背筋を伸ばしなさい」と励まされた言葉には、教育によって女性が自信を持ち、主体的に生きてほしいという願いが込められていました。後に続く宣教師たちも教育の質の向上に努め、２代目校長クラークソン先生は女子の高等教育を目指して中等教育機関へと発展させ、３代目校長・院長ブラウン先生、４代目院長ソール先生はリベラルアーツ教育を行う女子高等教育機関の実現に力を注がれました。女子の知的成長を支えることは、本学院が長く大切にしてきた教育の姿勢でもあります。

さらに、学院が大切にしてきた精神性は、５代院長デフォレスト先生の講話「ある日の感想」にも表れています。川辺で橋を造る老人が「これは自分のためではありません。あとの人のためです」と語った言葉を紹介し、学院の教育が今を生きる人だけでなく、未来の人々のためでもあることを示されました。創立150周年を迎えた昨年、学院はこの教えを改めて紹介し、「自分のためではなく、未来を生きる人々のために、自らの力を用いること」を掲げました。「隣人」の範囲を空間だけでなく時間を越えて未来へと広げることが、「愛神愛隣」の精神にふさわしいと再確認したのです。こうした精神は、学院の歩みの中で脈々と受け継がれてきました。

私は本学院の歴史を紐解く中で、いつの時代にもその教育のためにささげられた祈りと多くの支援があったことを学びました。また、卒業生が学院の理念を体現し、さまざまな場で活躍されていることも知りました。教育の豊かさを改めて深く実感し、その価値がどれほど多くの人生を照らし、未来を形づくってきたかを思うとき、これを守り抜き、次代へ確かに手渡していかねばならないという思いをいっそう強くしております。

幸いにもこの学び舎には、それを可能にする教育環境と人とのつながりが与えられています。また、多くの方々が物心両面でこの教育のわざを支えてくださっています。そして何より、どのような時にも学院を守り導いてくださる神様の祝福があります。神の御心と人の願いが一致するところに示されてきた神戸女学院の歴史を希望として、これからも邁進してまいります。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

本学のこれから

学長　中野　敬一

少子化に伴う18歳人口の減少により、私立大学の半数以上が定員割れとなる厳しい状況が続いています。とりわけ女子大学は入学者確保が難しく、「共学化」に踏み切る大学も増えています。

そのような環境下にあっても、本学は女性教育機関としての使命を堅持するという方針を明確にしてきました。女性だけの学び舎で、性別ではなく個人の人格と能力が正当に評価される経験を積んだ学生を社会に送り出すことは、これからの社会の活性化にとって重要な役割を果たすと考えています。また、「安心して学べる」「自由で自分らしくいられる」といった理由で本学を選ぶ学生も多く、その声を大学広報として積極的に発信しています。

女子大学としての教育的使命を果たすためには、まず入学してくださる学生が必要です。本学では、改組による新学部・新学科・新専攻の設置や新カリキュラムの導入など、教育内容の充実に取り組んできました。その結果、入学者は年々増える傾向にあります。

入学者数を確保するためには、志願者数の増加も欠かせません。多様な入試制度の実施、オープンキャンパスの拡充、高校訪問の強化、地域連携・高大連携の推進など、必要な施策を進めています。さらに、学生の「レベルアップ」を支えるため、多様な奨学金制度を新設しました。成績優秀者を対象とした新たな奨学金は効果を上げており、ご支援くださった卒業生の皆様には心より感謝申し上げます。

また、キャリアサポートの充実により高い就職実績を維持していることも、本学の大きな強みです。今後も学生一人ひとりの未来を支える体制を強化してまいります。

これからも厳しい状況は続きますが、新たな改組を視野に入れた改革案の検討を進めるとともに、他大学にはない魅力ある教育環境の発信に努めます。

神戸女学院からの問いかけ

中高部長　大門　光歩

150周年を記念して作成された学院の動画には、「正しく古いものは永遠に新しい」「ここが私の原点になる」というキャプションがありました。私は、この２つの言葉を神戸女学院から私たちへの問いかけであると捉えています。

「建学の精神や校風、伝統は今も新しいものとして保たれているだろうか？」

「神戸女学院の教育は、今も生徒・学生の原点となっているだろうか？」

この問いに対して「はい」と答えるためには、改めて建学の精神や校風、伝統の意義を確かめておかなければなりません。捉え直しと語り直しの試みがなければ、それらは過去のもの、古いものになってしまうからです。

特に教育の営みについては、新しさを求める以上に、歴史を学び、校風や伝統を語り直すこと、神戸女学院が担ってきたものの価値を、「常に新しいもの」として評価し直すことが求められていると考えています。

例えば、神戸女学院はキリスト教主義教育と女子教育の両面において先駆的な役割を果たしてきました。タルカット女史から「背筋を伸ばしなさい」との薫陶を受けた者の姿は、誰も知らないという意味で、まったく新しい人間の姿でした。つまり、神戸女学院が担ってきた女子教育は、男子と同等の教育を与えるという意味のものではなく、もっと積極的に、まったく新しい人間の姿を示していくのだというものでありました。キリストを模範とし、「愛神愛隣」に基づいて考え、行動する者の姿が、女性のみならず、多くの人に驚きと希望を与えたのだということを、150年の歴史と現在の生徒たちの姿から確かめることをしておきたいと思います。

神戸女学院を問う／確かめるということも大切ですが、神戸女学院から問われている／呼びかけられている、神戸女学院に応答するという営みを大切にしたいと考えています。

KCCだより

Julia Dudley 先生の最後の足跡を辿って

KCC-JEE 副会長　水野　多美

昨年10月、神戸女学院創立150周年記念式典に参加した際、神戸女学院の創立に貢献した宣教師 Julia Elizabeth Dudley 先生（1840-1906）のご子孫、Julia Samson さんにお会いする機会がありました。

その日の夕食の席でお話をする中で、Dudley 先生が晩年をカリフォルニア州 La Jolla で過ごされたことを知りました。もし住所が分かれば、その場所を訪ね、100年以上の時を経た現在の風景を見てみたい――そんな思いを抱くようになりました。

現在も住居の場所までは分かっていませんが、Dudley 先生が通っていた教会を教えていただき、先日、その教会の日曜礼拝に参加することができました。

礼拝後、教会代表の Bronwyn さんに、Dudley 先生の足跡を辿っていることをお話しすると、すぐに教会の古い記録帳を探してくださいました。そして、1904年のページに、Dudley 先生が Trustee として活動されていた記録を見つけてくださったのです。

100年以上前の記録の中に、確かに Dudley 先生の名前が残されていた瞬間、過去と現在が静かにつながったような不思議な感動を覚えました。Bronwyn さんも、「ノートを開いたら本当に Julia Dudley の名前が出てきて驚きました」と話してくださいました。

当時の La Jolla は、小さな漁村のような町で、人口も200人ほどだったと言われています。現在では “La Jolla Downtown” と呼ばれる賑やかな地域の中心に教会があり、駐車も難しいほど多くの人が集まる町になっています。

教会は1887年からこの地で活動を続けており、礼拝堂には歴史あるパイプオルガンが設置されています。このオルガンは、1915年のサンディエゴ博覧会の時代に作られ、現在も Balboa Park の屋外オルガンパビリオンに残るものと同じ製作者によるものだそうです。

また、Balboa Park の発展には、La Jolla の文化や教育を支えた Ellen Browning Scripps 女史の存在が大きく関わっています。園内には San Diego Zoo、美術館、博物館、日本庭園などがあり、日本庭園では毎月、裏千家淡交会による茶道デモンストレーションも行われています。

さらに、KC 史料室の佐伯さんからいただいた資料を通して1906年の Dudley 先生の訃報にも触れることができました。その中には、La Jolla の人々が Dudley 先生の死を深く悲しんだことが記されていました。

そして今回、教会の古い記録帳の中で、Dudley 先生の名前のすぐ下に、Ellen Browning Scripps 女史の名前が同じ Trustee として記されているのを見つけました。Ellen 女史もまた、女子教育や地域文化の発展に尽力した人物として知られています。

神戸で女子教育の礎を築いた Dudley 先生が、母国アメリカに戻り、晩年を過ごした La Jolla という小さな町で、地域の人々とともに歩んでいたことを思うと、不思議なご縁と歴史のつながりを感じます。

“La Jolla” はスペイン語で「宝石」を意味すると言われています。太平洋を望むこの美しい町で、Julia 先生が過ごした最後の日々に思いを馳せながら、神戸女学院への深い愛情と情熱が、今も静かに受け継がれていることを感じています。

Congregational Church of La Jolla
United Church of Christ
1216 Cave Street La Jolla, California 92037
lajollaucc.org

教会と教会のみなさま（筆者は前列右から 2 番目）

小林季子記念館献堂式

2026年３月24日10時からソールチャペルにおいて小林季子記念館献堂式が執り行われた。

中野敬一学長・学院チャプレンの司式により故・小林姉愛唱の聖公会讃美歌の歌詞で Amazing Grace を歌った。中野先生の聖書朗読（詩編127編１節）、中高部チャプレンの祈祷、立石浩一理事長の挨拶、学院事務局長の献堂の経過報告に続いて、飯 謙院長は、ご遺贈くださった故・小林姉を覚えてこの建物に関わる多くの方々への感謝と共に神に捧げるこの校舎を豊かに用いてくださるようにと祈祷を捧げた。立石先生から日建設計と竹中工務店に感謝状が、そして両社から立石先生に記念品が授与され、一同で記念歌を歌い、中野先生の祝祷をもってソールチャペルでの献堂式は終了した。

記念館に移動してテープカット、定礎式を行ったあと一同は記念館１階のめぐみコモンズ（学生ロビー）の記念銘板の除幕式を行った。祝辞で米津博子神戸女学院めぐみ会会長は、旧寄宿舎のテーブルや旧小林邸（東京クローバーハウス）の欄間を再利用した歴史に連なる校舎の完成したことを喜び、建設に心を寄せてくださった方々に感謝の言葉を述べられた。そしてこの場所が生徒・学生のサードプレイスになることを祈念して挨拶を終えられた。

このあと、心理相談室と心理学実験室となる校舎の内覧会が行われ、参会者60名は三々五々に校舎内を見て回った。

（神戸女学院史料室　佐伯 裕加恵）

小林季子記念館開館セレモニー

中高部長就任式

2026年４月１日９時からソールチャペルにおいて大門光歩中高部長就任式が執り行われた。

中野敬一院長の司式により一同で讃美歌412番を歌い、中高部チャプレンが聖書朗読（マタイによる福音書 22章34-40節）のあと祈祷を捧げられた。これまでも神は必要な人を立て、私たちを導いてくださった。この度、大門先生を立ててくださったことをみ旨と信じる。共に歩む力を与えてください、と。中野先生が、この度中高部長に就任する大門先生にはご自身の賜物を生かして存分にその力を発揮していただきたい、相手のことを大切に思い、大門先生と共に与えられた使命を果たしていきたいと挨拶された。内田　樹理事長から大門先生に辞令が手渡された。中野先生は在職の祈祷で、知恵と力を与えてくださるように、新年度を力強く歩んでいけるように、と神に祈られた。

中高部長就任の辞で大門先生は、神戸女学院は教育共同体として生きている学校である、神戸女学院は教える者と教えられる者が一緒に学ぶ学校であると証しする。生徒たちとの対話的な関係を通して共に成長していける関係へ。学校とは、教育とは、という問いの答えを共に考えていきたいと語った。

一同で記念歌を歌った。歌声は会堂内に満ち溢れた。中野先生の祝祷のあと、さいごに大門先生の中高部長就任を祝って皆で拍手をした。参列者は69名であった。

（神戸女学院史料室　佐伯 裕加恵）

中高部長就任式

第15代院長就任式

2026年５月29日10時35分からエミリー・ホワイト・スミス記念講堂において中野敬一先生の院長就任式が行われた。

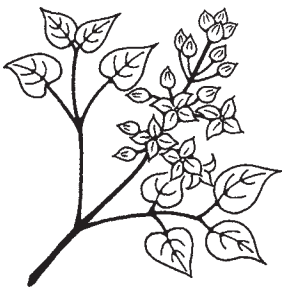
1954年版讃美歌90番を歌い、大門光歩中高部長が聖書（マタイによる福音書22章34節から40節）を朗読、中高部チャプレンが祈祷を捧げた。内田樹理事長が院長就任の経過を報告し、中野先生の略歴を紹介、祝辞を述べた。菅根信彦評議員（同志社教会牧師）が在職の祈祷を捧げた。

中野先生の就任の辞に続いて、３人の方々から祝辞をいただいた。西原廉太氏（キリスト教学校教育同盟理事長、立教学院院長）は、日本におけるキリスト教教育を先頭で、また根底から支えてきた神戸女学院の院長はキリスト教教育全体の導き手と言えると述べられた。米津博子氏（公益社団法人神戸女学院めぐみ会会長）は、三銃士の One for all, all for one. は「一人は皆のために、皆は一つの目的のために」と訳せる、力をあわせようと呼びかけられた。水野多美氏（KCC-JEE 副会長）は、一人ひとりが自ら考え、社会に貢献するという神戸女学院の教育を実感している、愛神愛隣は灯であると語られた。

古田昌子先生（メゾソプラノ）、菊本恭子先生（ヴァイオリン）、片桐聖子先生（オルガン）による祝歌が披露された。記念歌を歌い、大澤香先生の祝祷をもって就任式は終了した。その後、小林季子記念館めぐみコモンズで歓談の時がもたれた。参列者は約200名であった。

（神戸女学院史料室　佐伯 裕加恵）

就任式



［KCC（Kobe College Corporation）は1920年、第５代院長デフォレスト先生の尽力により、神戸女学院を支援するため、アメリカ合衆国イリノイ州に設立されました。以来、1933年のキャンパス移転の資金援助や、日米両国の学生生徒の文化交流、教師派遣など、神戸女学院は物心両面で大きな恩恵を受けてきました。2003年、KCC はその活動範囲を拡大するため、“Japan Education Exchange” を付け加えて、KCC-JEE となりました。］

2026年度　愛校バザー報告

愛校週間の週末である５月23日、白いテントが立ち並ぶグラウンドにて愛校バザーを無事に開催することができました。

当日早朝より各地から駆けつけてくださった皆様による準備が整い、開会礼拝が守られた後、この４月より新たに院長に就任された中野先生（学長兼務）から、高らかに開会宣言が発せられ、学院に連なる皆にとって大切な一日が始まりました。開始前からお店の前にお客様の列が長く伸びていたKCベアや院章商品は今年も大人気でございました。

特に今年は、この春に理学館西側地域再整備工事が完了し、新たに「小林季子記念館」が供用開始となったことを受けて、その見学も兼ねてのお客様も多かったように思われます。

新校舎の１階に置かれた「めぐみコモンズ」は眺望に恵まれた開放的で居心地よいスペースとして、久しぶりに岡田山に帰ってこられた同窓生や旧教職員にも好評を博し、正門とは趣が異なる第二玄関・西門のエントランス棟としての役割を立派に果たしていました。

この日のためにご奉仕いただきましためぐみ会、P.T.A.、生徒、学生、教職員らと共に、同窓生の皆様が互いに旧交を温めながら、豊かで美しい岡田山キャンパスを満喫し、母校を愛する想いを再確認していただけたならば幸いに存じます。

こうして皆様のお力添えのおかげで「2026年度愛校バザー」が盛大に開催できましたことを、感謝と喜びをもってご報告申し上げます。来年度は2027年５月22日に開催予定でございます。どうぞ挙ってお運びください。

（学院事務局長）

当日の会場風景

創立150周年記念募金

（神戸女学院教育振興会寄付金）

2025年度ご寄付実績

区　　分	件数/冊数	金額(円)
同窓生	900件	353,483,220
在校生	3件	45,011
保護者（大学・中高）	157件	11,756,010
役員（教職員を除く）	18件	2,860,000
教職員・旧教職員	64件	3,606,000
法人・団体	51件	8,971,337
一般有志	50件	4,710,450
金銭によるご寄付計	1,243件	385,432,028
リサイクル募金によるご寄付	6,591件	395,777
寄付金額合計		385,827,805

※複数の区分に該当する方の場合は、事務処理上妥当と思われる区分を選択しております。

2025年度　神戸女学院家庭会幹事会報告

実施日：2025年７月12日
内　容：2025年度役員・幹事の選出、2024年度決算及び2025年度予算案の承認

チャプレン室報告

2025年度　愛校週間

〈 5月19日～5月23日 〉

・創立150周年記念　創立者記念日礼拝
日　程：５月22日　13時20分～14時
場　所：日本基督教団　神戸教会　礼拝堂
奨励者：学院チャプレン　中野 敬一

・春季宗教強調日礼拝（創立者記念日礼拝）
「創立者イライザ・タルカット先生
（1836-1911）―神戸女学院建学の祈り―」
日　時：５月23日　10時35分～11時25分
講　師：理事長・院長　飯　謙

2025年度　宗教強調週間プログラム

〈 11月10日～11月14日 〉

11月10日
早天祈祷会
グローバル・スタディーズ学科　２年生
中高部礼拝　学長・学院チャプレン　中野 敬一
チャペルアワー　中野 敬一

11月11日
早天祈祷会　高等学部　２年生
中高部礼拝「背筋を伸ばして」
チャペルアワー「最後の短剣」
日本基督教団霊南坂教会牧師、
同附属幼稚園園長、
東京同信伝道会委員長　後宮 敬爾
全教職員礼拝・永年在職者表彰式
「小さい群れよ、恐れるな」　後宮 敬爾

11月12日
早天祈祷会　総合文化学科　３年生
中高部礼拝
チャペルアワー
「イエスはアホや
―ファーストの時代に人として生きる」
東八幡キリスト教会牧師、
NPO 法人抱樸理事長　奥田 知志

学生寮夕拝「今じゃなくても、いつの日か」
日本基督教団甲東教会牧師　新堀 真之
11月13日
早天祈祷会　高等学部　2年生
中高部礼拝「女学院の DNA」
チャペルアワー「マルタ的生き方」
兵庫県阪神南県民センター芦屋健康福祉事務所長、
神戸女学院理事　松本 安代
同窓生のための宗教講話
「この日から愛が新しい意味をもった
～創立の“時”を心に刻んで～」
日本基督教団同志社教会牧師、
神戸女学院評議員　菅根 信彦
11月14日
早天祈祷会
環境・バイオサイエンス学科　4年生
中高部礼拝
「もし明日、世界が終わるとしても変わらないもの」
中高部 PTA のための宗教講話
「子どもに何を求めますか？」
白浜バプテスト基督教会牧師　藤藪 庸一
アッセンブリアワー　大学チャプレン　大澤　香

2025年度　クリスマス

〈 礼　拝 〉

・点灯式
日程：12月１日
奨励：学長・学院チャプレン　中野 敬一
奏楽：大学聖歌隊ハンドベルクワイア
・中高部クリスマス礼拝
日程：12月17日
説教：京都葵教会牧師　内山 友也
・大学クリスマス礼拝「色彩豊かな夜空」
日時：12月19日　12時～13時
説教：大学チャプレン　大澤　香
・学院クリスマス礼拝
「賢者の贈り物、私たちの捧げ物」
日時：12月19日　18時30分～20時
説教：理事長・院長　飯　謙
演奏：音楽学部、高等学部・中学部
指揮：松浦　修（音楽学部）・中高部
奏楽：片桐 聖子

〈 プレゼント報告 〉

送付先：大阪水上隣保館、神戸真生塾、社会福祉法人 牧人会白河めぐみ学園と白河こひつじ学園

〈 クリスマス献金報告 〉

中高部	30,478円
大学クリスマス礼拝	19,386円
学院クリスマス礼拝	70,288円
学生・教職員　献金箱	46,071円
合　計	166,223円

献金先内訳：
特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン　96,000円
大阪水上隣保館、釜ヶ崎いこい食堂　各10,000円
社会福祉法人「ゼノ」少年牧場「ゼノ」こばと園、曙教会（長島愛生園）、日本キリスト教海外医療協力会　各5,000円
社会福祉法人光朔会オリンピア　5,223円
インド三浦後援会、日本基督教団部落解放センター、社会福祉法人イエス団 真愛ホーム、社会福祉法人あゆみ学園、日本基督教団兵庫教区長田活動センター、ペシャワール会、社会福祉法人関西盲人ホーム、日本キリスト教社会事業同盟、国境なき医師団、学校法人日本聾話学校　各3,000円

（チャプレン室）

2026年度　年間標語

「喜びなさい。初心に帰りなさい。励まし合いなさい。思いを一つにし、平和に過ごしなさい。そうすれば、愛と平和の神があなたがたと共にいてくださいます。」　（Ⅱコリント 13:11）

＊『聖書協会共同訳』

学院チャプレン　中野　敬一

とくに注目したいのは、「初心に帰りなさい」という言葉です。『新共同訳聖書』では「完全な者になりなさい」と訳されています。原語ギリシア語のカタルティゾーには、「元の正しい状態に整える」「本来の道へ立ち帰らせる」「完全にする」「備える」「補う」など、多様な意味が含まれています。

そのため「完全な者になりなさい」という訳も妥当ですが、新しい翻訳である『聖書協会共同訳』の「初心に帰りなさい」には、「あるべき姿へと整えられ、原点に立ち返る」というニュアンスが、より鮮明に感じられます。

神戸女学院は昨年、創立150周年という大きな節目を経て、151年目の歩みを始めました。創立以来、人も社会も大きく変化し、時代ごとに直面する課題も異なります。しかし、どの時代にも揺らぐことのない指針が私たちには与えられています。困難の多い今だからこそ、学院の使命を思い起こし、私たち一人ひとりも自らの初心に帰り、それぞれに託された役割と使命を確かめることが求められているのです。

ちなみに、キリスト教の礼拝の最後には、牧師による「祝祷」と呼ばれる祝福の祈りが会衆に向けてささげられます。最もよく用いられる言葉は、コリントの信徒への手紙（二）13章12節の「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にありますように。」です。

この言葉は「願い」というより、むしろ「宣言」にあたります。つまり、「喜びなさい。初心に帰りなさい。励まし合いなさい。思いを一つにし、平和に過ごしなさい。」という教えに応えて歩もうとする者を、神は確かに支えてくださるのだという宣言でもあるのです。

大学報告

＜大阪・関西万博関係＞

学生４名が研究発表！

昨年開催された大阪・関西万博において、学生４名が研究発表を行いました。

発表を行ったのは、環境・バイオサイエンス学科３年生２名と２年生１名、総合文化学科２年生１名（いずれも発表当時）です。７月24日に「テーマウィーク：学びと遊び」の一環で開催された日経STEAMスペシャルセミナー（主催：日本経済新聞社大阪本社）に参加しました。

本学の発表テーマは「日本における性感染症の現状と教育現場及び家庭での性教育について」。学生たちは発表に向けて２月頃から準備を始めました。５～６月にかけては、中高生、大学生とその保護者、高校教員を対象としたアンケート調査を実施し、約1,500名から回答を得ました。また４～６月にかけては、行政関係者や大学生、高校生らとの座談会も行うなど、多様な立場からの意見を収集しました。

こうした調査や対話を通じて得られた知見をもとに考察を重ね、発表では、日本における性感染症の現状や性教育を取り巻く課題について報告するとともに、性教育は「命を守る」ために欠かせない教育であること、さらに、同世代の若者自身が主体的に発信することに大きな意義があることを提言しました。

発表後には、同様に研究発表を行った帝塚山学院高等学校の生徒とのトークセッションも実施され、世代や立場を越えた活発な意見交換が行われました。また、その様子はオンラインで世界に向けて配信されました。

参加した学生からは「当初はアンケートの回収に不安もありましたが、想像を遥かに超える声が寄せられ、社会的な関心の高さを肌で感じることができました」といった手応えが語られました。自ら課題を見つけ、多様な立場の方々と対話を重ねたプロセスは、学生たちにとって単なる研究発表の枠を超え、自身の視野を広げる極めて貴重な成長の機会となりました。

（学長室課長）

モーツァルテウム合唱プロジェクト

本学はモーツァルテウム大学と2013年より協定を結び、音楽学部では毎年秋のFriendship Weekに教授１名と学生２名が来校し１週間にわたり交流を持つ他、本学の学生を毎年派遣留学で受け入れていただくなど、親密な関係を築いてきた。

2024年11月にモーツァルテウム大学学長Elisabeth Gutjahr氏と副学長Anastasia Weinberger氏が本学を訪問され、その際に本合唱プロジェクトへの協力要請があった。このプロジェクトはモーツァルテウム大学が主催し、AEC（Association Européenne des Conservatoires）加盟大学、音楽院に呼びかけて行われるもので、本学からは特別に４名の学生が参加できることとなった。

５月12日～20日、世界各国からの学生たちが本学キャンパスに集結し、Jörn Andresen先生（モーツァルテウム大学合唱指揮教授）の指揮のもとに集中練習を行い、５月20日には本学エミリー・ホワイト・スミス記念講堂にてプレ・コンサートを行った。コンサートのテーマは声、言葉、音楽、そして何よりも希望を探求すること。異なる国籍、言語、背景を持つ学生たちが、各国の言語で声を合わせ、心を合わせたこの企画は、不寛容や排他主義がはびこる世界において、音楽を通した若い力の交流が未来への希望となるよう願いが込められている。

大阪・関西万博での本番は５月23日、オーストリアのナショナルデーに行われた。万博会場のEXPOナショナルデーホールには早くから行列ができ、オーストリアからの多数の来賓と共に、本学からも飯院長、中野学長はじめ音楽学部関係者らが出席した。

満場の拍手を浴びた学生たちと共に、本学にとっても国際交流の貴重な機会をいただけたことに感謝したい。

（音楽学部長　なかにし あかね）

2025年５月23日　EXPOナショナルデーホール

神戸女学院の森が自然共生サイトに認定

神戸女学院のキャンパス内に広がる森は、長年にわたり多様な動植物が共存してきた貴重な自然環境です。この森は「神戸女学院　愛神愛隣の森」として、2025年９月、環境省より自然共生サイトに認定されました。自然共生サイトは、生物多様性の保全が図られている区域を国が認定する制度であり、本学院の森がその価値を広く社会に認められたことを意味します。

神戸女学院のキャンパスは14.6ヘクタールの広さを有し、そのうちおよそ３分の１にあたる５ヘクタールがこの豊かな森によって占められています。森にはヒメユズリハなどおよそ600種の植物が息づき、シジュウカラなど400種を超える多様な動物が生息しています。また、1941年に造成された万葉池は、景観的価値とともに、アカハライモリなどの水生生物の重要な生息場所となっています。

愛神愛隣の森は、教育や研究の場としても重要な役割を担っています。学生や生徒たちはこの森を舞台に、生物多様性の調査や環境保全に関する実習を行い、自然と人との関わりについて実践的に学んでいます。また、森はタケノコなど多様な恵みをもたらす場でもあります。神戸女学院が大切にしてきた豊かな自然環境は、今後も次世代へと引き継がれていくべきかけがえのない財産です。これからも、この愛神愛隣の森を大切に守りながら、神戸女学院に関わるすべての人にとって価値ある場として活かしていくことが期待されます。

（生命環境学科教授　髙橋 大輔）

多様な動植物がすむ愛神愛隣の森

西宮市市制施行100周年記念式典における学生の参画

2025年４月20日西宮市民会館（アミティ・ベイコムホール）にて開催された「西宮市市制施行100周年記念式典」において、本学音楽学部の学生がオープニングパフォーマンスを担当した。西宮市からの依頼を受け、学生たちは式典の幕開けを彩る重要な役割を担い、市制100周年という記念すべき節目に華を添えた。

まず、第一部オープニングでは、デュカス作曲《ラ・ペリのファンファーレ》を金管楽器専攻学生９名が演奏した。本作品はバレエ《ラ・ペリ》の開幕前に演奏される華やかな楽曲であり、編曲・指導を本学教授の松浦修が担当した。輝かしく力強い響きにより、これから始まる式典への期待感と高揚感を会場全体に生み出した。

続いて、山田耕筰作曲の「西宮市歌」を金管楽器伴奏と22名の学生による合唱で披露した。松浦修による編曲のもと、松本薫平の指揮により演奏され、市民とともに西宮の歴史と歩みを振り返る場となった。

最後には祝歌として、ヘンデル作曲《メサイヤ》より「ハレルヤ」を演奏した。22名の学生による合唱が、松本薫平の指揮、山内海波のピアノ伴奏によって披露され、荘厳かつ祝祭的な雰囲気の中、「主を讃えよ」という意味を持つハレルヤの響きが会場を包み込んだ。

本公演を通して、学生たちは地域社会の重要な式典に参加し、演奏技術のみならず、社会的役割や芸術文化の意義について学ぶ貴重な機会となった。

（音楽学科教授　松本 薫平）

西宮市市制施行100周年記念式典より

ジェンダーインスティチュート設立40周年記念特別講演会

好天に恵まれた2025年11月30日、午後２時よりエミリー・ホワイト・スミス記念講堂にて、東京大学名誉教授で認定 NPO 法人ウィメンズアクションネットワーク理事長の上野千鶴子先生を講師にお招きし、「ジェンダーインスティチュート設立40周年記念特別講演会」を開催いたしました。学内外のどなたでも参加可能としておりましたが、受付開始直後に申し込みが殺到し、用意した450席すべてが短時間でなくなってしまうほどのたいへんな盛況でした。上野先生によるジェンダーやフェミニズムについてのお話への皆さまの関心の高さがうかがえました。

ご講演のタイトルは「女の子はどう生きるか？これからあなたが出ていくのはどんな社会か」というもので、おもに本学の学生を含む若い女性に向けた内容でしたが、お話が進むにつれて、入試での女性差別や男女の賃金格差など、日本社会で女子が経験する生きづらさの根底には構造的な障壁並びに固定化した性役割分業があり、それらはどの世代の誰もが直面しうる困難につながっている、という現状が明らかになりました。またお話の最後に翌年３月開催の「女性の休日」という全国行動のご紹介があったことをきっかけに、本学でも３月６日に「神戸女学院大学版女性の休日」として就業時間中に女性教職員向けの『女性の休日』上映会を開催しました。今後ジェンダーインスティチュートの取り組みを発信する際にも有益なヒントがいっぱいの講演会でした。

（ジェンダーインスティチュートディレクター　瀬戸　智子）

当日は構内の紅葉も見頃でした。

宝塚カレーグランプリ参加

2025年８月20日から25日まで、宝塚阪急で開催された「第５回　宝塚カレーグランプリ」。阪神地区の８大学が味とセンスを競い合うこの大舞台に、本学ゼミ生たちが真っ向から挑みました。

今年の３年生が掲げたテーマは、「ほっとする癒しカレー」。2024年度の激辛路線から180度転換し、日本人の口に合うマイルドな「チキンティッカマサラ」を目指しました。しかし、マイルドさは一歩間違えれば「物足りなさ」に繋がります。トマト酸味、ヨーグルトのまろやかさ、そして隠し味の「味噌」。何度も試作を重ねる日々。ようやく納得のいく「コクと深み」に辿り着いたとき、ゼミ室には安堵の笑顔が広がりました。

私たちチームが店頭に立った８月24日、25日の２日間は、就職活動を終えたばかりの４年生も応援に駆けつけ、ゼミ一丸となってプロモーションに励みました。「いらっしゃいませ！」と声を枯らして呼びかける３年生。その背中を４年生が頼もしく支える。学年を超えて一つになった「チーム高岡ゼミ」の姿は輝いて見えました。

結果は惜しくも上位入賞には届きませんでしたが、一皿のカレーを通じて得たのは、商品開発の難しさと、それを上回る「仲間と団結する喜び」。この経験を胸に、学生たちは次のステップへと歩みを進めます。

（生命環境学科教授　高岡 素子）

一皿に込めたゼミの絆

学部報告（国際学部）

2025年度

高大連携協定模擬講義

Jones 准教授
5月14日　兵庫県立西宮苦楽園高等学校［本学］

第16回絵本翻訳コンクール

Jones 准教授、中村 准教授、
増田 沙奈 氏（翻訳家・卒業生）
応募申込・作品応募：
6月2日～8月29日　1392件
作品応募：575作品
結果発表：10月14日
国際学部ウェブサイト　9作品
受賞者の集い：10月25日　13:30～15:00
オンライン

高大連携協定スピーチコンテスト審査

Wong 教授
6月11日　兵庫県立尼崎小田高等学校

特別講義「ロヒンギャ問題の現状」

講師：大橋 正明 氏（恵泉女学園大学名誉教授）
6月12日　15:00～18:00　L-1

難民映画祭（学校パートナーズ）作品上映会
「グレート・グリーン・ウォール」

6月17日　①11:00～12:40　@L-28、
②13:10～14:50　@LA I-21、
③15:00～16:40　@LA I-21

国勢調査説明会

講師：総務省職員
6月18日　12:35～13:15　L-3

高大連携協定模擬講義

米川 教授
6月27日　仁川学院高等学校

高大連携協定探究支援

南出 准教授
7月9日　兵庫県立姫路飾西高等学校

高大連携協定模擬講義

南出 准教授
7月11日　兵庫県立西宮苦楽園高等学校

高大連携協定模擬講義

Jones 准教授
7月11日　兵庫県立尼崎小田高等学校［本学］

第21回大阪アジアン映画祭映画字幕制作

南出 准教授、Jones 准教授
「晩秋」（Autumn Flies）
（オビジッド・スリダス監督）
作業：7月12日、13日
オンライン（Zoom）、19日　L-3
上映：9月1日　14:40
テアトル梅田シネマ4
9月3日　16:10　ABC ホール
シンポジウム：
9月3日　19:00～20:00
Art Beat Café

高大連携協定模擬講義

松尾 教授
7月15日　兵庫県立西宮苦楽園高等学校

高大連携協定探究成果発表途中報告会コメント

山﨑 教授
7月16日　兵庫県立姫路飾西高等学校

国際開発援助サマースクール「気候変動」

講師：鎌田 卓也（世界銀行キャリア・アドバイザー）、三輪 桂子（世界銀行西アフリカ地域局セネガル担当カントリーディレクター）、石原 陽一郎（世界銀行東部・南部アフリカ地域総局スーダン担当カントリーマネージャー）、児玉 十代子（世界銀行東部・南部アフリカ地域局シニア給水衛生スペシャリスト）、橋爪 真弘（東京大学

大学院医学系研究科国際保健政策学教授)、北川 啓子 ((株)JERA 財務戦略統括部グローバル IR 部サステナビリティ推進ユニット長)、高田 美穂 (世界銀行東アジア・パシフィック地域総局シニア農業エコノミスト)、保坂 智子 (ANA ホールディングス CSO)、北野 美英 (在日米国商工会議所 D&I 委員長、SynFiny Advisors 日本代表・パートナー、島津製作所取締役)
7月30日～8月3日　D-201

国際学部トークイベント
パネラー：Carney 教授、Jones 准教授、Vaage 准教授
司会：中村 准教授
9月23日　13:30～15:00　L-28

学生主催国際学部・文学部講演会
「ヤングケアラーとは」
講師：小田桐 麻未 氏
(一般財団法人ヤングケアラー協会)
10月14日　13:00～14:30　L-26

第50回神戸女学院大学英語英文学会
特別講演
「言語としての手話
～ろう者を取り巻く社会と手話の可能性～」
下谷 奈津子 氏
(関西学院大学手話言語研究センター助教)
研究発表
"The Intersection of Dramaturgy and Translation in Theatre: Exploring Performability and Singability"
津田 愛果 氏 (翻訳・通訳・ドラマターグ)
「TopP か High ApplP か？―心理動詞構文における主観性と構文的統合性の理論的再検討―」
A. F. 氏 (神戸女学院大学博士課程)
10月31日　14:00～16:30　オンライン　約32名

英語劇 "Hamlet" 上演
THAT Production Company
11月2日　14:00～15:40　講堂　約76名

高大連携協定模擬講義
Wong 教授
11月7日　兵庫県立尼崎小田高等学校

高大連携協定講演
米川 教授
11月12日　兵庫県立尼崎小田高等学校

特別講義「映画『ブルーボーイ事件』からの問いかけ」
講師：飯塚 花笑 氏 (映画監督)
11月25日　11:00～12:30　オンライン

特別講義「英語で稼ぐ!?実務翻訳者のキャリアとAI時代のホントのところ」
講師：加藤 祥子 氏 (日英翻訳者)
11月26日　11:00～12:30　L-22

特別講義
講師：アルハッターブ・クタイバ 氏
11月26日　15:00～16:30　D-202

高大連携協定模擬講義
松尾 教授
12月12日　兵庫県立西宮苦楽園高等学校

Field Study in Okinawa 報告会
W212(2) Field Study in Okinawa 履修学生、Banasick 教授
12月12日　10:35～11:25　L-28

高大連携協定探究学習中間発表コメント、委員会での指導・助言
山﨑 教授
12月18日　兵庫県立姫路飾西高等学校

高大連携協定模擬講義

米川 教授

12月18日　兵庫県立宝塚西高等学校

特別講義 “Memory Politics of Minamata”

講師：アイリーン・美緒子・スミス 氏

（グリーン・アクション代表）

１月14日　12:35～13:15　L-20

特別講義「ダウン症を持って生きていくこと

――心理、社会、言語の観点より」

講師：酒井　萌 氏

１月19日　15:00～16:30　JD-102

入学前交流会

２月４日　10:00～11:30　オンライン

新入生41名、上級生９名、教員４名

高大連携協定探究発表会コメント

山﨑 教授

２月５日　兵庫県立姫路飾西高等学校

高大連携による模擬講義

「通訳・翻訳ワークショップ」

中村 准教授

３月３日、３月６日　兵庫県立宝塚西高等学校

高大連携協定探究発表会、推進会議

白井 教授

３月９日　兵庫県立西宮苦楽園高等学校

高大連携協定次年度計画

白井 教授

３月23日　兵庫県立尼崎小田高等学校

2026年度

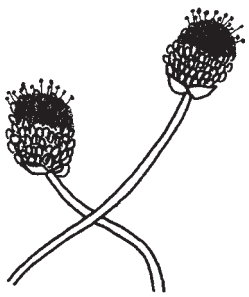
国際学部 New Student Day 2026

４月８日　10:00～13:00　H-303、キャンパス

新入生121名、上級生リーダー12名、教員16名

（国際学部長　白井 由美子）

国際開発援助サマースクール 2025



学部報告（文学部）

2025年度

【総合文化学科主催公開講演会】

・「先住民族アイヌを学ぶ」
後　援：西宮市・宝塚市
日　時：６月６日 10:35～13:00
@エミリー・ホワイト・スミス記念講堂
参加者：256名
講　演：「樺太のトンコリと物語」
講　師：OKI（音楽プロデューサー）
上映会：「普段着のアイヌ」（制作：国立アイヌ民族博物館、監督：OKI）
OKI インタビュー

・「かつてエンジニアで移民だった私が、在日移民支援 NPO immi lab を立ち上げた理由」
日　時：６月13日 11:30～13:00　@ L-28
参加者：39名
講　師：北川 ペドロソ 実萌
（特定非営利活動法人 immi lab 代表理事）

・「日本被団協運動から学び、原爆体験を語り継ぐ」
後　援：西宮市・宝塚市
日　時：７月８日 15:00～16:30　@ H-301
参加者：32名
講　師：中村 典子（日本被団協二世委員会委員、兵庫県被爆二世の会会長、兵庫県被団協常任理事）
被爆体験証言：是清 百合子

・「シルヴィア・バロン・シュペルヴィエル　詩と映画をめぐる対話　映画上映会・監督講演会」
後　援：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ・インスティトゥト・セルバンテス東京
日　時：11月24日 13:20～14:50　@ JD104
参加者：50名
講　師：マリオ・ダニエル・ヴィジャグラ
（映画監督、作家、詩人、アーティスト）

【専門部会】

・前期講演者：米田 眞澄
「法と社会の相互作用
～半世紀の女たちの運動を軸として～」
日　時：７月２日 16:40～18:10　@ L-3
参加者：13名（内、学生４名）

・後期講演者：三杉 圭子
「異端のモダニスト詩人、エドナ・セント・ヴィンセント・ミレイのソネット」
日　時：11月27日 16:40～18:10　@ L-7
参加者：６名

【総合文化学科出版助成補助による出版物】

・三杉 圭子　　共著者：別府 恵子、中村 仁美
『異端のモダニスト―エドナ・セント・ヴィンセント・ミレイのソネットを読む』（春風社）

・川瀬 雅也
『我は真理なり―キリスト教の哲学のために』
（法政大学出版局）

【卒業論文関係】

・「卒業論文中間報告会」
遠隔開催：９月26日 9:00～10月６日 17:00
参加者：３、４年生全員
対面開催：開催の場合はゼミ毎に設定

・「卒業論文発表会」
2026年１月30日 10:30～15:30
参加者：３、４年生全員（１、２年生任意）
卒業論文提出者全員が口頭で発表、資料は Moodle にアップロード（全学科生閲覧可）

【高大連携による活動（学外模擬講義・高校職員研修会講演）】

６月11日　私立土佐女子高等学校１年、２年
佐藤 園子　文学
７月15日　県立西宮苦楽園高等学校１年
景山 佳代子　社会学
９月　私立仁川学院高等学校　連続授業
５日　朴　秀娟／19日　藤岡 達磨／
10月３日　建石　始
２月26日／３月９日　県立宝塚西高等学校
建石　始　兵庫県特別プログラム

3月9日　県立宝塚西高等学校1年
藏中 さやか　文学

8月29日　県立西宮苦楽園高等学校職員研修会
伊井 直比呂
「探究活動について」講演

【高大連携による活動（学内模擬講義、遠隔指導等）】

4月8日　私立大阪信愛学院高等学校2年
金田 知子
連携校出題テーマ研究の指導

11月11日　私立和歌山信愛高等学校1、2年
戸江 哲理　社会学

12月11日　私立梅花高等学校2年
景山 佳代子　社会学

2月20日～3月6日　私立神田女学園高等学校
清水　学　NCL（探求学習）指導
「高1動画」「高2論文」

3月11日　県立西宮高等学校1、2年
田村 美由紀　文学

【出張模擬講義】一部のみ掲載

5月14日　私立育英高等学校2年
桐生 裕子　歴史学

6月18日　県立橿原高等学校2、3年
川瀬 雅也　哲学・倫理

7月10日　県立三田祥雲館高等学校2年
栗山 圭子　文学

10月16日　私立清心女子高等学校1、2年
奥野 佐矢子　教育学

10月27日　私立賢明学院中学高等学校2年
河島　真　歴史学

11月20日　府立旭高等学校2年
藏中 さやか　文学

12月17日　県立宝塚高等学校1年
三杉 圭子　文学

12月22日　県立夢野台高等学校2年
田村 美由紀　文学

3月2日　県立有馬高等学校1年
朴　秀娟　日本語教育学

3月16日　県立武庫荘総合高等学校1年
戸江 哲理　社会学

等、多数実施しました。

【学科開設50周年関連等、広報活動】

・Instagram 総合文化学科［公式］、開始
https://www.instagram.com/kc_sobun_1976/
・クリアファイル、フライヤー、DM 用パンフ制作・配布
・開設50周年記念フォーラム（2026年6月6日開催）フライヤー制作・配布

（文学部長　藏中 さやか）

学部報告（音楽学部）

2025年度

神戸女学院大学音楽学部主催

音楽学部 新人演奏会
４月16日　住友生命いずみホール

音楽研究科 第24回修士課程修了披露演奏会
４月24日　兵庫県立芸術文化センター
神戸女学院 小ホール

ベガにオーケストラがやってきた！ Vol. 14～神戸女学院大学オーケストラ in 宝塚～〈第32回サマーコンサート〉
６月23日・６月24日　宝塚ベガ・ホール

第32回オータムコンサート
10月８日　兵庫県立芸術文化センター
神戸女学院 小ホール

音楽研究科 ２年生による音の響宴 Vol. 19
11月12日　兵庫県立芸術文化センター
神戸女学院 小ホール

定期演奏会　神戸女学院創立150周年記念
12月２日　兵庫県立芸術文化センター
KOBELCO 大ホール

舞踊専攻 第17回卒業公演
12月11日・12月12日・12月13日
エミリー・ブラウン記念館 スタジオＡ

ウインドオーケストラふれあいコンサート Vol. 3
２月14日　エミリー・ホワイト・スミス記念講堂

2025年度卒業演奏会
２月24日・２月25日
エミリー・ホワイト・スミス記念講堂

舞踊専攻 第20回舞踊公演
３月５日・３月６日
豊中市立文化芸術センター 大ホール

その他授業関係

●オペラ実習
オペラ実習発表会
２月11日　エミリー・ホワイト・スミス記念講堂

●音楽によるアウトリーチ
７月５日　子どものための七夕コンサート
11月29日　子どものためのクリスマスコンサート
２月23日　スペシャル・コンサート

●音楽キャリアデザイン専攻
西北活性化協議会 クリスマスイベント ハンドベル演奏
12月７日　兵庫県立芸術文化センター１階
エントランス

西宮浜義務教育学校ワークショップ
１月13日、２月13日

ウインドオーケストラ スペシャルコンサート
時をつむぐ祈りとハーモニー
２月27日　ザ・シンフォニーホール

第１回 KC ミュージカル 美女と野獣～コンサート形式～
３月14日　エミリー・ブラウン記念館 B1Fスタジオ

●リトミック演習
リトミックワークショップ
２月21日　ジョージ・オルチン記念音楽館 合奏室

産学連携・地域貢献・その他

スミリンケアライフとの産学連携によるコンサート（エレガーノ西宮）
５月12日・７月７日・８月４日・10月６日・
12月８日・12月22日・２月23日・３月23日

大阪万博合唱プロジェクト プレコンサート
５月20日　エミリー・ホワイト・スミス記念講堂

大阪万博 オーストリア ナショナルデー 合唱参加
５月23日　EXPO ナショナルデーホール

大同生命ロビーコンサート
６月24日　大同生命大阪本社 １階
エントランスホール

たいしウインドアンサンブル ジョイントコンサート
９月28日　相生市立文化会館
扶桑電通なぎさホール

神戸女学院大学音楽学部オーケストラ with 島崎央子 特別演奏会
11月16日　アミティ・ベイコムホール

兵庫県立芸術文化センターオープンデー
子どものためのコンサート、親子リトミック
11月29日　兵庫県立芸術文化センター
1F エントランス

神戸女学院創立150周年記念式典
10月12日　エミリー・ホワイト・スミス記念講堂

（音楽学部長　なかにし あかね）

2025年10月12日　神戸女学院創立150周年記念式典

学部報告（心理学部）

2025年度

New Student Day 開催

テーマ（目的）：新入生歓迎
講　師：心理学部全教員及び教学職員
日　程：2025年４月８日
場　所：学内（D館他）
参加者：新入生127名

「Pal ふれんど」募集説明会（心理系キャリアサポートルーム主催）

テーマ（目的）：宝塚市教育委員会「Pal ふれんど」派遣事業の紹介と学生ボランティアの募集
講　師：宝塚市教育委員会職員２名及び心理学部４年生（Pal ふれんど）１名
日　程：2025年５月２日
場　所：D-208教室
参加者：学部生36名

先輩に聞いてみよう（心理系キャリアサポートルーム主催）　場所：S-3 教室

第１回　テーマ：臨床心理学分野の大学院生の生活に関する質疑
2025年５月16日　学部生10名
第２回　テーマ：公認心理師と精神保健福祉士への学び
2025年６月10日　学部生16名
第３回　テーマ：大学院入試に向けた勉強法
2025年７月11日　学部生22名
第４回　テーマ：心理職の現場〈医療領域と教育領域の紹介〉
2025年10月17日　学部生16名
第５回　テーマ：心理職の働き方についての質疑
2025年10月31日　学部生12名
第６回　テーマ：ゼミ選び
2025年11月14日　学部生15名
講　師：心理学部教学職員（心理系キャリアサポートルーム担当）、心理学部生、人間科学研究科大学院生

メンタルヘルス・マネジメント®検定　説明会・勉強会・試験（心理系キャリアサポートルーム主催）

団体説明会：上記検定の内容、試験、勉強会の案内等　2025年７月15日　学部生16名
勉強会：公式テキストによる勉強会並びに小テスト
2025年11月25日、12月９日、2026年１月20日、２月３日　延べ20名
検定試験の実施：2026年２月17日　学部生18名
場所：S-3 教室（試験は D-203教室）
講師および試験監督者：心理学部教員１名、心理学部教学職員（心理系キャリアサポートルーム担当）

「家庭裁判所調査官」説明会（心理系キャリアサポートルーム主催）

テーマ（目的）：家庭裁判所の紹介、調査官の業務概要や職場環境について
講　師：神戸家庭裁判所尼崎支部調査官２名
日　程：2025年10月３日
場　所：H-301教室
参加者：学部生35名

精神保健福祉士養成課程予備登録ガイダンス説明会

テーマ（目的）：精神保健福祉実習の予備登録と履修要件について
講　師：心理学部教員（精神保健・福祉分野）及び教学職員
日　程：2025年11月５日
場　所：H-301教室
参加者：24名

公認心理師必須科目「心理実習・心理演習」説明会

テーマ（目的）：４年次開講の「心理実習・心理演習」の授業内容及び履修者選考の説明
講　師：心理学部教員（臨床心理学分野）及び教学職員
日　程：2025年11月６日
場　所：H-301教室
参加者：心理学部生78名

公認心理師関連科目予備登録説明会

テーマ（目的）：心理アセスメント・支援法受講希望者への予備登録説明
講　師：教学職員（臨床心理学分野）
日　程：2025年11月27日
場　所：H-301教室
参加者：心理学部２年生90名

2026年度演習Ⅰ履修のための説明会

テーマ（目的）：ゼミ分属のための全体説明会
講　師：心理学部全教員
日　程：2025年11月28日
場　所：LAⅡ-45教室
参加者：心理学部２年生110名

2026年度学部別集会

テーマ（目的）：未知の世界に飛び込むこと―インドでのボランティアを振り返って
講　師：文山 専任講師
日　程：2025年12月12日
場　所：S-34教室

公認心理師心理実習報告会

内　容：2025年度の心理実習（学外施設訪問実習）の報告
講　師（報告者）：2025年度心理実習履修者４年生、実習担当教員
日　程：2025年12月16日
場　所：S-7 教室
参加者：学部生30名

精神保健福祉士実習報告会

テーマ（目的）：精神保健福祉士実習の報告
講　師（報告者）：2025年度課程４年生、実習担当教員
日　程：2025年12月21日
場　所：EB-201
参加者：学部生及び卒業生30名

「大阪府　福祉専門職」説明会（心理系キャリアサポートルーム共催）

テーマ（目的）：福祉専門職の配属機関や業務概要、職場環境、採用制度についての説明
講　師：大阪府職員２名
（うち１名は心理学部卒業生）
日　程：2026年１月16日
場　所：H-301教室
参加者：学部生11名

卒業研究発表会

テーマ（目的）：卒業研究の口頭発表およびポスター発表
講　師：心理学部全教員
日　程：2026年２月２日
場　所：LAⅠ-21及び理学館
参加者：心理学部１～４年生

（心理学部長　石谷 真一）

卒業研究発表会口頭発表の様子

学部報告（生命環境学部）

2025年度

西宮市立甲東小学校校外学習自然観察会
担当教員：高木 俊人 専任講師
日　程：５月７日、７月９日、11月４日、12日、
　　１月13日
場　所：神戸女学院大学
参加者：のべ550名

芦屋市保育園環境教育
担当教員：髙橋 大輔 教授
日　程：５月17日、６月23日
場　所：芦屋市緑保育所、芦屋市岩園保育所
参加者：のべ30名

尼崎小田高等学校探究学習ポスター発表の講評
担当教員：高木 俊人 専任講師、
　　髙林　裕 専任講師、
　　西　靖 特別客員教授
日　程：５月30日
場　所：神戸女学院大学
参加者：50名

芦屋市保育園食教育
担当教員：高岡 素子 教授
日　程：６月23日、10月７日
場　所：芦屋市立精道こども園、
　　芦屋市立西蔵こども園
参加者：のべ92名

生命環境学部設立記念シンポジウム
担当教員：髙橋 大輔 教授、佐藤 友亮 教授、
　　高岡 素子 教授、横田 弘文 教授
日　程：８月２日
場　所：神戸女学院大学
参加者：約170名

子どもサイエンス体験
担当教員：高木 俊人 専任講師
日　程：８月５日
場　所：神戸女学院大学
参加者：８名

日経 STEAM2025シンポジウム参加
担当教員：高岡 素子 教授
日　程：８月８日
場　所：インテックス大阪
参加者：約80名

西宮市いきものふれあいフェスタでの環境学習
担当教員：横田 弘文 教授
日　程：８月22日
場　所：西宮市環境学習サポートセンター
参加者：約50名

宝塚カレーグランプリ2025出場
担当教員：高岡 素子 教授
日　程：８月24日、25日
場　所：宝塚阪急百貨店
参加者：約150名（約400食販売）

アマミノクロウサギのイベント実施
担当教員：三宅 志穂 教授
日　程：９月27日、28日
場　所：平川動物公園（鹿児島）
参加者：187名

西宮市立門戸幼稚園の自然学習
担当教員：高木 俊人 専任講師
日　程：10月14日
場　所：神戸女学院大学
参加者：20名

阪神中学校教育研究会理科部会での講演
担当教員：横田 弘文 教授
日　程：11月13日
場　所：宝塚市立長尾中学校
参加者：約100名

アマミノクロウサギのイベント実施
担当教員：三宅 志穂 教授
日　程：11月23日
場　所：天王寺動物園
参加者：197名

生命環境学部０年生のクリスマス会
担当教員：高岡 素子 教授（主担当）、
高橋 大輔 教授、横田 弘文 教授、
西海　信 准教授、高林　裕 専任講師
日　程：11月29日
場　所：神戸女学院大学
参加者：19名

新課程の高等学校「化学」に対応するための研修会の講師
担当教員：中川 徹夫 教授
日　程：12月６日
場　所：第一薬科大学（福岡市）
参加者：50名

宮水ジュニア講座開催
担当教員：高橋 大輔 教授
日　程：２月14日
場　所：神戸女学院大学
参加者：22名

兵庫県立西宮高等学校のサイエンス体験実施
担当教員：西海　信 准教授
日　程：３月11日
場　所：神戸女学院大学
参加者：５名

SDGs 探究×研究 サイエンスフォーラム
担当教員：高木 俊人 専任講師（主担当）、
上　泰 教授、張野 宏也 教授、
佐藤 友亮 教授、高橋 大輔 教授、
西海　信 准教授
日　程：３月20日
場　所：神戸女学院大学
参加者：９校15組

（生命環境学部長　横田 弘文）

SDGs サイエンスフォーラムの様子

2025年度　神戸女学院大学図書館報告

1．統計

• 蔵書数（冊）

	2025年度受入*	2025年度末現在
和書	1,639	275,481
洋書	178	174,107
合計	1,817	449,588
AV 資料	1点	4,177点

＊教育資料費による購入図書42冊、寄贈図書150冊を含む

• 2025年度貸出状況（冊）

学　生	8,247
教職員	3,641
外来者	855

• 2025年度相互利用（件）

	文献複写	図書借用	閲覧	照会
依頼	230	75	6	7
受付	202	13	7	8

2．ガイダンス　　合計44回開催

• 新入生対象
蔵書検索等、基本的な図書館の利用案内
• １年生後期対象
蔵書検索の応用編、図書館の利用案内
• ２年生対象
ゼミ決定前に、検索とデータベースの活用法の説明
• ３・４年生対象
卒論執筆に向けた資料収集方法の説明
• 交換留学生対象
蔵書検索等、基本的な図書館の利用案内、資料収集方法の説明
• 音楽研究科対象　データベース RILM 講習会

3．神戸女学院創立150周年記念展示Ⅲ開催

2025年５月20日から７月19日まで、図書館本館にて、学院主催「神戸女学院創立150周年記念展示Ⅲ　Bridging Generations―神戸女学院の150年と織りなす未来―」を、開催いたしました。

本展示では、３年連続で実施してきた記念展示の集大成として、創立前史から現在に至る学院の歩みを振り返り、宣教師や日本のキリスト者、協力者たちの思いの重なりによって本学が成立したことを示すとともに、卒業生の活躍を通じて本学が日本の女子教育において果たしてきた役割の一端を紹介しました。

会期中は、学内外あわせて1,820名ものみなさまにお越しいただき誠にありがとうございました。３年連続で開催いたしました神戸女学院創立150周年記念展示は、今回をもちまして終了となります。お力添えをいただいたみなさまに心より感謝申し上げます。

4．活動報告

本年度は、図書館新館では月替わりの展示を継続し、音楽学部図書室では「2025年にアニバーサリーを迎える音楽家」、本館では「神戸女学院創立150周年記念展示Ⅲ」を開催いたしました。

授業支援の一環としては、新館にて図書館職員２名によるブックトークを実施したほか、大学院生 iLib スタッフによる学部生の論文・レポート相談も行っております。学生のみなさんに積極的に活用していただければと願っております。

さらに、３月26日に「神戸女学院デジタルアーカイブズ」を公開いたしました。このアーカイブズは、本学院が保有または所蔵する、未来に継承すべき文化財および史資料を公開し、本学院の歴史と育まれてきた文化を広く社会に発信・共有することを目的とするもので、公益財団法人図書館振興財団の助成を受けて構築しています。

（図書館課長）

2026年度　大学・大学院入学試験結果概要

●大　学

学　部	学　　科	入学定員	入学者数
国際学部	英語学科	100	81
	グローバル・スタディーズ学科	50	42
文学部	総合文化学科	200	184
音楽学部	音楽学科	40	57
心理学部	心理学科	96	94
生命環境学部	生命環境学科	80	81
合　　計		566	539

●大学〔編入学（３年次）〕

学　部	学　　科	入学定員	入学者数
文学部	英文学科	—	0
	総合文化学科	—	4
音楽学部	音楽学科	1	2
合　　計		1	6

●大学〔編入学（２年次）〕

学　部	学　　科	入学定員	入学者数
国際学部	英語学科	—	0
	グローバル・スタディーズ学科	—	0
音楽学部	音楽学科	※	1
合　　計		—	1

※音楽学科の１名は２年次に編入（定員１名は３年次編入に含む）

●大学院（修士課程・博士前期課程）

研究科	専　　攻	入学定員	入学者数
文学研究科	英文学専攻	13	0
	比較文化学専攻	5	3
人間科学研究科	人間科学専攻	10	12
音楽研究科	音楽芸術表現専攻	7	3
合　　計		35	18

●大学院（博士後期課程）

研究科	専　　攻	入学定員	入学者数
文学研究科	英文学専攻	2	0
	比較文化学専攻	2	0
人間科学研究科	人間科学専攻	2	3
合　　計		6	3

2025年度　進路状況報告

学　　科	卒業者数	就職希望者数	就職決定者数	就職率	進学者数	実就職率
				就職決定者／就職希望者	大学院	就職決定者／（卒業者－院進学者）
英　　文	79	68	67	98.5%	2	87.0%
総合文化	149	132	131	99.2%	3	89.7%
音　　楽	31	20	20	100%	2	69.0%
心理・行動科	96	78	77	98.7%	10	89.5%
環境・バイオサイエンス	39	28	28	100%	8	90.3%
合計	394	326	323	99.1%	25	87.5%

（2026年４月末日現在）

2026年度　在籍学生数

（2026年５月１日現在）

●大　学

学部・学科 ＼ 学年		国際学部			文学部			音楽学部	心理学部	生命環境学部	人間科学部			合計
		英語学科	グローバル・スタディーズ学科	小計	英文学科	総合文化学科	小計	音楽学科	心理学科	生命環境学科	心理・行動科学科	環境・バイオサイエンス学科	小計	
1年	26000	81	42	123		184	184	57	94	81			0	539
2年	25000	58	25	83		173	173	54	126	91			0	527
3年	24000	64	35	99		185	185	58	116	0		59	59	517
4年	23000	0	0	0	53	156	209	52	0	0	99	46	145	406
	22000	0	0	0	13	9	22	3	0	0	13	5	18	43
	21000	0	0	0	2	4	6	1	0	0	1	3	4	11
	20000	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
	19000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　計		203	102	305	68	712	780	225	336	172	113	113	226	2,044

●大学院　修士課程・博士前期課程

研究科・専攻 ＼ 学年		文学研究科			人間科学研究科	音楽研究科	合計
		英文学	比較文化学	小計	人間科学	音楽芸術表現	
1年	2600	0	3	3	12	3	18
2年	2500	2	0	2	8	6	16
	2400	0	2	2	0	0	2
	2300	0	0	0	0	0	0
	2200	1	0	1	0	0	1
合　計		3	5	8	20	9	37

●大学院　博士後期課程

研究科・専攻 ＼ 学年		文学研究科			人間科学研究科	合計
		英文学	比較文化学	小計	人間科学	
1年	2600	0	0	0	3	3
2年	2500	1	0	1	2	3
3年	2400	0	0	0	1	1
	2300	0	0	0	0	0
	2200	0	0	0	0	0
	2100	0	1	1	0	1
合　計		1	1	2	6	8

●科目等履修生

学　部	5
大学院	0

●聴講生

学　部	3
大学院	5

2025年度　留学・海外研修、2026年度　前期受入れ留学生報告

○2025年度留学・海外研修

留学/研修名	行先（国）	人数
派遣留学	ロックフォード大学（アメリカ）	2
	ワイオミング大学（アメリカ）	1
	ボーリンググリーン大学（アメリカ）	1
	イーストアングリア大学（イギリス）	1
	ミリアム大学（フィリピン）	1
	東呉大学（台湾）	1
	文藻外語大学（台湾）	1
	徳成女子大学（韓国）	1
	梨花女子大学（韓国）	1
	モーツァルテウム音楽大学（オーストリア）	3
中期留学	カリフォルニア大学アーバイン校（アメリカ）	1
	ヨーク大学（カナダ）	2
	グリフィス大学（オーストラリア）	3
語学研修	イーストアングリア大学（イギリス）	6
	昭和ボストン・インスティテュート（アメリカ）	2
	ヨーク大学（カナダ）	4
	西オーストラリア大学（オーストラリア）	10
	ラプラプセブ国際大学（フィリピン）	12
	オックスフォード大学（イギリス）	4
	グリフィス大学（オーストラリア）	7
	梨花女子大学（韓国）	2
海外インターンシップ	日本旅行　シンガポール	1

○2026年度前期受入れ留学生

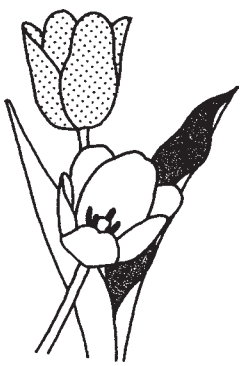
大学名（国）	人数	備考
ボーリンググリーン大学（アメリカ）	1	2025年度後期から継続
文藻外語大学（台湾）	2	2025年度後期から継続
日越大学（ベトナム）	2	うち1名は2025年度後期から継続
徳成女子大学（韓国）	1	
梨花女子大学（韓国）	1	
セントジョセフ大学（インド）	2	
アサンプション大学（フィリピン）	1	
バングラデシュ独立大学（バングラデシュ）	1	

（国際交流センター）

2025年度　夏期インターンシップ実施報告

No.	派遣先	日程
1	野村證券株式会社（4名）	8月18日～8月22日
2	日本航空株式会社（4名）	9月～12月の中で5日間
3	株式会社河合楽器製作所（1名）	8月21日～8月29日
4	兵庫県庁（1名）	8月18日～8月22日

（キャリアセンター）



2025年度　クローバー賞表彰式

日程：2025年10月24日
※大学祭オープニングセレモニーに引き続き

場所：中庭

大学クローバー賞について：
神戸女学院大学に在籍する学生の課外活動を奨励することを目的とし、顕著な活動や成績を収めた本学自治会登録団体、又はその団体に所属する個人に対し、その栄誉を称えて贈られる賞

選考について：
2025年９月22日開催の連絡協議会にて、「課外活動報告書」に基づき、連絡協議会委員と大学自治会委員の投票により決定

受賞団体：以下６団体（順不同）
・チアリーディング部 VENUS
・観世流能楽部
・学生 YMCA
・裏千家茶道部
・箏曲部
・書道部

（学生生活支援センター）

2025年度　めぐみ会賞表彰式

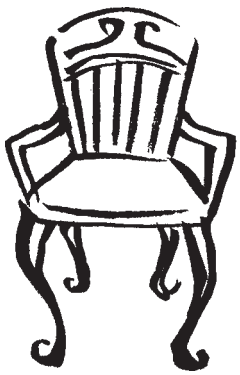
めぐみ会では大学生及び中高部の生徒の自主的な活動を支援するため、神戸女学院の立学の精神にふさわしい課外活動を行っている団体を対象として「めぐみ会賞」を設け、毎年受賞団体に表彰状と副賞を授与しています。

大学表彰式：2025年10月24日　岡田山祭
・受賞団体「学生 YMCA」
「聖歌隊ハンドベルクワイア」

中高部表彰式：2026年２月９日　礼拝
・受賞団体「礼拝オルガニスト」「ＪＳ清掃部」

各団体とも持続的なボランティア活動が評価されました。今年度もクラブ、同好会などからのご応募をお待ちしています。

（公益社団法人神戸女学院めぐみ会
会長　米津 博子）



2025年度　研究所活動報告

◇講演会

いのち輝いて生きる
性とは・愛とは・生きるとは
公益社団法人 小さないのちのドア 代表理事
永原 郁子 氏
（2025年10月17日開催）

◇助成・補助

◆出版助成　5件

1．『我は心理なり――キリスト教の哲学のために』
総合文化学科　川瀬 雅也 教授

2．『異端のモダニスト――エドナ・セント・ヴィンセント・ミレイのソネットを読む』
総合文化学科　三杉 圭子 教授

3．『Melodic Explorations
―“Doppler the Flute Works”』（CD）
音楽学科　Xavier LUCK 教授

4．『My Star 私の星よ
～なかにしあかね 英詩による歌曲作品集』
（CD）
音楽学科　なかにし あかね 教授

5．八木澤教司作品集 CD
『トゥベルナルトの聖なる泉』（CD）
音楽学科　八木澤 教司 准教授

◆体育・芸術活動助成　1件

1．佐々由佳里　室内楽シリーズ Vol. 12
～ボヘミアの風　第2弾～
音楽学科　佐々 由佳里 教授

◆研究助成　5件

1．日本語マッカーサー乳幼児言語発達質問紙を用いた文法指標の算出
英語学科　松尾　歩 教授

2．Osaka Studies: Cultural and Linguistic Insights from the 2025 Expo
グローバル・スタディーズ学科　Goran VAAGE 准教授

3．憲法第73次修正後のインド地方自治の歴史的展開
総合文化学科　北川 将之 教授

4．フランス現代詩における地理的・言語的移動に関する研究―シルヴィア・バロン・シュペルヴィエルを中心に―
総合文化学科　佐藤 園子 専任講師

5．京都市及び亀岡市に生息する野生メダカの遺伝子型解析
生命環境学科　横田 弘文 教授

◆総合研究助成　2件

1．人口操作の実証・理論分析とジェノサイド目的検証―アフリカ、アジアと中東の事例から
研究代表者
グローバル・スタディーズ学科　米川 正子 教授
その他2名

2．総合芸術としてのミュージカル教育のカリキュラム開発に関する研究～表現力・創造力を育む実践的学習の構築
研究代表者　音楽学科　松浦　修 教授
その他2名

◆専門部会研究発表会補助　3件

1．（前期）総合文化学科
法と社会の相互作用
～半世紀の女たちの運動を軸にして～
米田 眞澄 教授

2．（前期）英語学科
Novel Word Learning by Different Populations
松尾　歩 教授

3．（後期）総合文化学科
異端のモダニスト詩人、エドナ・セント・ヴィンセント・ミレイのソネット
三杉 圭子 教授

◆国際学会出張補助　5件

1．35th International Society for Humor Studies Conference
グローバル・スタディーズ学科　Goran VAAGE 准教授

2．Central European History Convention
総合文化学科　桐生 裕子 教授

3．The 28th European Conference on South Asian Studies
グローバル・スタディーズ学科　南出 和余 准教授

4．11th International Deer Biology Congress
生命環境学科　高木 俊人 専任講師
5．6th International Symposium on Vietnamese Linguistics
英語学科　松尾　歩 教授

◇発行物

『論集』第72巻第１号（通巻第194号）2025年６月発行
『論集』第72巻第２号（通巻第195号）2025年12月発行

※2025年度時点の所属等にて記載

（研究所）

2025年度　ジェンダーインスティチュート活動報告

１．講演会他

（１）ドキュメンタリー映画上映・監督トークイベント
『かづゑ的』
熊谷 博子 監督
（2025年６月29日開催・西宮市大学交流センター）

（２）定例研究会
「ルッキズムとの戦い方」
東京理科大学 教養教育研究院　西倉 実季 教授
東京経済大学 全学共通教育センター　澁谷 知美 教授
（2025年７月６日開催）

（３）神戸女学院大学ジェンダーインスティチュート設立40周年記念特別講演会
「女の子はどう生きるか？これからあなたたちが出ていく社会はどんな社会か」
東京大学 名誉教授
認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク（WAN）理事長
上野 千鶴子 氏
（2025年11月30日開催）

（４）合同研究会
共催：奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター
「ジェンダードイノベーションズを取り入れたゼミ教育」
生命環境学科　佐藤 友亮 教授
「現代日本の「脱毛規範」の転覆を試みる
―脱毛文化に巻き込まれながら生きてきた女性たちの作品に注目して―」
奈良女子大学
アジア・ジェンダー文化学研究センター
河野 夏生 特任助教
（2026年３月３日・オンライン開催）

２．助成・補助

研究助成：１件
「外見の多様性を受容する社会を構築するための意識改革」
心理学科　矢野 円郁 教授

3．学生懸賞論文
（第27回ジェンダーインスティチュート賞）

・応募総数：１編
・最優秀賞：該当なし
・優秀賞：該当なし

4．授業

Cu130ab　「女性学（Ⅰ）」a、b
Cu131ab　「女性学（Ⅱ）」a、b
Cu236ab　「ジェンダー学」a、b
Cu237(1)　「ジェンダー学特論」

5．ジェンダーインスティチュート学生サポーター「ミルラ」の活動

サポーター学生数：13名（2026年２月時点）
（１）学内生理用品設置プロジェクト
前年度に引き続き、学内に生理用品配置
（２）岡田山祭出店
・特定非営利活動法人 HIKIDASHI（性教育カフェ）と２日目のみ共同出店
・サニタリーポーチ作成ワークショップ
・学内生理用品設置プロジェクトとデート DV について展示等
（３）西宮市男女共同参画センター ウェーブとの協働イベントに参加
・令和７年度あらゆる暴力防止のための講演会「漫画『彼女は NO の翼を持っている』で考える恋愛のフツウって？」にて講師とのトークタイム時に登壇
・女性特有の健康課題を考える１day イベント「みんなでオープンに知ろう・話そう生理のこと」に参加
サニタリーポーチ作成のワークショップおよび絵本の読み聞かせを実施
（４）ミルラ公式インスタグラムで情報発信
他、学内外で広く活動

6．国際女性デー関連

（１）映画『女性の休日』の上映会を開催
開催日：2026年３月６日
対象：本学教職員
（２）2026年３月８日国際女性デーに大学およびジェンダーインスティチュートホームページ・SNS からメッセージ発信

7．発行物

『ジェンダーインスティチュートジャーナル』
第40号（2026年３月発行）

※2025年度時点の所属等にて記載

（ジェンダーインスティチュート）

中高部報告

第18回国際地学オリンピック大会（IESO）

高等学部　3年生（当時）

2025年8月、私は中国・山東省で開催された第18回国際地学オリンピックに日本代表として参加しました。入学以来、先輩の背中を追いかけ、憧れ続けた夢の舞台でした。

代表決定後、5ヶ月に及ぶ研修や東アジア大会、代表合宿を経て臨んだ本大会には、世界約40か国から選手が集いました。試験は筆記・実技の個人競技に加え、国籍混合チームで挑む競技（ITFI、ESP）の3つで構成されています。個人試験では分野横断的な地学現象を捉える国際大会特有の複雑な問題群を楽しみ、実技試験では中国の大規模な露頭を前に、日本では味わえない地学のスケールに鳥肌が立つ思いでした。また、国際チーム競技では神戸女学院で培った英語コミュニケーション力を活かし、パキスタンやチリなど、多国籍なメンバー5人と寝食を忘れて調査に没頭しました。結果、個人では銀メダル、チーム競技では今大会唯一となるダブル金メダルをいただくことができました。

何よりの財産は、志を共にする仲間や先生方との出会いです。同じ学問を大きな熱量を持ってそれぞれの国で突き詰めてきた同世代たちに勇気を貰い、研修を通じてご指導くださった先生方からは、学びに対する真摯な姿勢を教わりました。この貴重な経験を糧に、今後も幅広い学問を楽しんでいきたいです。

2027年度は島根で国際大会が開催されます。今度はOGとして、先輩方から引き継いだジャケットを身に纏い、大会運営を支える側として貢献したいと強く願っています。

第18回国際天文学･天体物理学オリンピック大会 Bronze Medal

高等学部　2年生（現3年生）

私は2025年8月にインド・ムンバイで開催された、第18回国際天文学・天体物理学オリンピックIOAAに日本代表として参加しました。

本大会は天文学に関する能力を競う国際大会で、約60ヶ国から300名の選手が集いました。望遠鏡で疑似的な星空を観測して答える実技試験や、宇宙物理学を使う理論試験、実際の天文学者の仕事に近いデータ解析試験など、計4種類の試験がありました。また試験の合間には遠足があり、日本とは全く異なるインド文化に触れることもできました。

このIOAAは学生生活の中で、最も私を成長させてくれた2週間だったように感じます。インド人ボランティアの方、ラトビア人のルームメイトなど、様々な国の同世代の天文好きと交流できたことが素晴らしい思い出となっています。日本代表メンバー含め、天才ばかりで最初は圧倒されましたが、レベルのはるかに高い人たちに囲まれ、たくさん刺激を受けたことで、このような人たちについていけなくても、せめて追いかけられるように一層努力しようとモチベーションがわきました。

J2から国内予選に挑み、日本代表になってからはIOAA対策に寝る間も惜しんで努力し、そのために犠牲にしたこともあります。しかし、このような貴重な経験をさせてもらい、Bronze Medalも獲得し、すべてが報われたと胸を張って言えます。この経験を糧に、これからも知の探究を続けていきます。

高円宮杯を経験して

中学部　３年生（現高等学部　１年生）

今回の原稿では、私がスピーチを作り始めてから本選に行くまでの約７か月間、大変だったことや本選で得られた経験などを書きたいと思います。スピーチはまず最初の３か月ほどで原稿を考えます。大会によってテーマが決まっている場合もありますが、高円宮杯にはないので、自分がスピーチで伝えたいことをコーチの先生方の力をお借りして英語にしていきます。そして予選があるまでの１か月間、原稿の暗記と、目線や身振り手振りなどのスピーチの練習をします。英語弁論大会というだけあって、発音はもちろん、内容やスピーチ力も大事になってくるので、そこの完成度を高めるのがとても大変でした。そして、私がこの高円宮杯を強くお勧めする理由が、東京で行われた本選です。本選は複数の地域ごとに分かれて２日間の予選、最終日に決勝の計３日間あるのですが、生徒たちは宿泊施設に相部屋で泊まります。晩御飯の後にレクリエーションがあり、様々な地域の同学年の人と交流ができましたし、夜は部屋の皆と沢山喋ることができました。また、最終日のレセプションは帝国ホテルの一番大きい宴会場で行われていて、オーケストラの生演奏や、紅茶や軽食もいただけました。このような貴重な経験ができた所には、今の中学生に本物を知ってほしいという高円宮様の思いを強く感じました。スピーチ以外にもエッセイや暗唱などいろいろ種類があるので、もっとこれらの大会が賑わってほしいなと思います。

NICT ネクストアントレプレナーズピッチ

高等学部　３年生（当時）

今年２月、大学入試を目前に控えて、カリフォルニア州シリコンバレーに降り立った。

GAFAM をはじめ、今や誰もが知る企業を生み出し、世界を変えてきた歴史を持つ、IT 系スタートアップの聖地だ。

昨年のビジネスコンテストで優勝し、「シリコンバレーの起業家精神を学ぶ」ツアーに招待いただいたのだった。

到着してすぐに、ダウンタウンへ行くバスに乗った。iPhone17 の巨大な広告看板が等間隔に並ぶハイウェイを走るあいだ、自分が舞台装置の一部にでもなったような気分だった。

現地では、日本を離れて生きる様々な人と出会った。

トー横に通う日々を送っていたが、友人の逮捕を機に奨学金を取って渡米し、今は UC バークレー校に通って起業を目指しているという学生。

幼い頃、数百ドルしか持たずに渡ったアメリカから帰れなくなり、現地で働きながら起業したという方は、「ビジネスの１番の醍醐味は、仲間と稼いだお金を分け合うことだよ」と笑った。

18歳で人生は決まらないのかもしれない、とそこで気づいた。

帰り際、飛行機の窓から太平洋を眺める。

目まぐるしく変わり続ける世界は箱庭のようで、自分が無力な張りぼてのように感じられる。しかし、そんな世界を動かしているのは、確かに人間の情熱なのだ。

１日１日の歩みこそが、自分を取り巻くものを変えていく。18歳の選択もまた、その連続の中にある。

今日、ここで、次の１歩を踏み出す。

第14回近畿高等学校囲碁選手権大会 女子団体戦　優勝

高等学部　２年生（現３年生）４名

「団体戦に出たい！」この思いから私たちの挑戦が始まりました。囲碁の団体戦は、棋力が高い順に主将、副将、三将となっており、２勝したチームが勝利となります。団体戦は３人揃わなければ出場できません。しかし、学校に囲碁部がなく、メンバーはわずか２人しかいませんでした。それでも、団体戦に強い憧れを抱いていた私たちは、中学１年生の頃から会う人会う人に「囲碁って知ってる？」「一緒にやってみない？」と声をかけ続け、現在は16人もの仲間がいます。念願の団体戦に出場できる体制は整ったものの、そこで待っていたのは高い壁でした。近畿高等学校囲碁選手権大会は県予選で優勝・準優勝した学校のみが参加します。出場している他校は囲碁部のある学校ばかりで、昨年の本大会では、洛南高等学校に敗れ３位という結果に終わりました。顧問の指導の下日々研鑽をつむ学校の強さを実感すると共に、この経験が私たちの向上心に火をつけ、全員が優勝を目標に努力を重ねていきました。そして迎えた今年の大会当日、決勝で再び洛南高等学校と対戦し、三将戦は惜しくも落としたものの、主将戦と副将戦で勝利し、念願の近畿優勝を達成し、全国でも７位の成績を収めることができました。この経験を糧に、最終学年である今季は新たなメンバーと共に全国優勝を目指します。最後に、共に戦ってくれた素晴らしい仲間、支えてくれた家族、そして応援し見守ってくださった先生方に感謝いたします。

第35回　日本クラシック音楽コンクール 全国大会　入選

中学部　２年生（現３年生）

私は小学生の頃からピアノが大好きで、コンクールに挑戦したりコンサートに出演させていただいたりしてきました。中学１年生の時には、オーケストラの中でソリストとして演奏するコンチェルトへの出演のお声をかけていただきました。憧れの舞台で夢のような機会だったため本当に嬉しく、この日に向けてたくさん練習を重ねました。しかし本番では、普段は緊張しない私が思いもよらないほど緊張してしまい、練習通りに弾くことができませんでした。本番後には悔しさから涙が止まらず、自分の未熟さと向き合う大きなきっかけとなりました。その後、ご指導いただいている先生に相談し、受験で減っていた舞台経験を補うために日本クラシック音楽コンクールに挑戦することを決めました。久しぶりの挑戦でしたが全国大会まで進むことができ、自由曲で好きな曲を楽しく演奏できたことは大きな自信となりました。また、この経験を通して本番での心の持ち方や集中力の保ち方、演奏に向き合う姿勢の大切さを学ぶことができました。

年始には再びコンチェルトに出演させていただきましたが、このコンクールの経験のおかげで前年ほど緊張せず、心から音楽を楽しみながら演奏することができ、自分自身でも納得のいく演奏ができたと感じています。

これからも周りの方々への感謝を忘れずに、ピアノを楽しみ続けながらさらに成長していきたいと思います。

第27回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA ショパニストＡ部門　全国大会金賞

高等学部　２年生（現３年生）

第27回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA ショパニストＡ部門大阪地区大会金賞、全国大会金賞をいただきました。

文化祭のクラシックコンサートに出場するためにずっと憧れていたショパンのピアノソナタ第２番第１楽章を練習し始めたのをきっかけに先生からこのコンクールを勧められてエントリーしました。小学１年生の時に初めて出場したコンクールで最優秀賞をいただいてから毎年様々なコンクールに出場してきましたが勉強に専念するためしばらくお休みするので今回有終の美を飾ることができとても嬉しく思います。コンクールはそれまでどんなに思い通りに弾けていても本番１度きりの演奏で結果が決まるという独特な緊張感がありますが、その数分間の集中力でいつも以上の力が出せた時の達成感が大好きです。全国大会本番前はこれが最後の大舞台だと思うと寂しさや不安など様々な感情に押しつぶされそうになりましたが、それと同時に自分が思っている以上にピアノが大好きなんだと再確認できました。今まで近くで支え応援してくれた先生方、家族に感謝しています。

大学生になったらピアノを再開してたくさんの曲に触れてまたコンクールにも挑戦していきたいと思います。

神戸女学院で数オリと向き合って

高等学部　２年生（現３年生）

私は日本数学オリンピックと日本女子数学オリンピックに参加し、それぞれＡランク表彰と銀賞をいただき、その結果ヨーロッパ女子数学オリンピック日本代表になりました。

数学オリンピックは競技数学と言われる、所謂受験数学とは異なるもので、難問とじっくり向き合うのが特徴です。数オリの魅力は、一読しただけでは手の付けようもない高い壁のように見える問題が、観察したり手を動かして実験したりするうちに解きほぐれて、解けそうな小さな山の集まりへと変わる瞬間だと思います。たとえ３時間苦しんだとしても、その瞬間には全てが報われた気持ちになります。

実は一直線に数オリを目指せた訳ではありません。中１のころから憧れはありましたが、１人で何をすれば近付けるか分からず、短期間適当に対策して、部活などを言い訳にして、予選落ちを繰り返していました。しかし、高１からは本気で夢を掴みたいと思い、手探りではありますが時間の限り勉強を進めていきました。今年は先生のお力添えもあって実力が上がったのを感じており、良い集大成の年にできて本当に嬉しく思います。

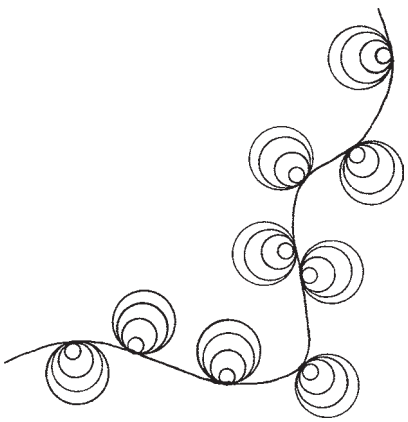
神戸女学院では自由な時間が多く、挑戦を応援してくれ、また、他の科学オリンピックに挑戦する同輩の姿を見て勇気づけられる素敵な環境です。そんな場所でこれからも数オリを目指す子が居続けて、そして願わくは孤独感を感じずに取り組めるよう、微力ながらお手伝いできたらなと考えています。

2026年度　中学部入学試験結果報告

日程：2026年１月17日（土）・19日（月）

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
135	214	210	154	145

（中高部事務室）



2026年度　春の遠足

日　程：４月17日

Ｊ１
場　所：再度公園、神戸市立外国人墓地
概　要：神戸教会（礼拝）→諏訪山公園金星台→再度公園→神戸市立外国人墓地（墓参）→新神戸駅
参加者：143名
引率教員：８名

Ｊ２
場　所：摩耶山掬星台
概　要：阪急王子公園駅北 神戸市立原田児童館前の公園→行者堂→掬星台→五鬼城展望公園→阪急王子公園駅
参加者：133名
引率教員：７名

Ｊ３
場　所：鍋蓋山
概　要：鈴蘭台駅 車庫前広場→鍋蓋山→再度公園→諏訪山公園
参加者：140名
引率教員：７名

Ｓ１
場　所：六甲山アスレチックパーク GREENIA
概　要：六甲ケーブル下駅→六甲山上駅→六甲山アスレチックパーク GREENIA →六甲ケーブル山上駅→六甲ケーブル下駅
参加者：142名＋留学生３名
引率教員：５名

Ｓ２
場　所：神戸市立森林植物園
概　要：神戸市営地下鉄谷上駅北 塚畑公園→山田道→神戸市立森林植物園→神戸電鉄北鈴蘭台駅
参加者：125名
引率教員：７名

Ｓ３
場　所：神戸布引ハーブ園
概　要：神戸布引ハーブ園 森のホール→ハーブ園園内散策→新神戸駅
参加者：129名
引率教員：７名

（中高部教諭）

2026年度 「春の子ども会」報告

日　時：2026年４月29日 9:30～16:00
場　所：神戸女学院中高部葆光館・タルカット館・グラウンド
参加者：神戸真生塾の小学生13名
同朋学園の小学生10名
サン野菊尼崎の小学生７名
ファミリエ光の小学生５名
伊丹深愛館の小学生９名
神戸女学院高等学部生72名
内　容：
9:30　子どもたちが神戸女学院に到着
9:30～10:00　開会式・セレモニー
10:00～12:00　室内で工作などして遊ぶ
12:00～12:40　昼食
＊食堂のお弁当
12:40～13:40　自由時間
13:40～15:00　グラウンドで遊ぶ
15:00～　閉会式
15:30～　解散

（2026年度高等学部役員会顧問）

2026年度　J1 デイキャンプ報告

高等学部　２年生（現３年生）

2026年４月１日と４月２日の２日間、J1 デイキャンプを開催しました。今年のキャンプテーマは、新J1の学年カラー緑をイメージした「Leaf」と信じることを意味する「belief」をかけて、『BeLeaf』でした。このテーマには、これから信頼できる仲間に出会い、切磋琢磨し成長できる６年間を送ってほしいという願いが込められています。

J1 デイキャンプの準備は前年度の10月から始まりました。参加メンバーはスタッフとカウンセラーの２種類に分かれます。スタッフは、幹部としての役割を担い、当日のプログラムを練り、当日は全体がスムーズに進むよう励みます。カウンセラーは、新J1を楽しませるゲームを考案し、当日は新J1に混ざって班を作り、一緒にプログラムに参加します。１日目のプログラムは、開会式の後、班ごとの昼食、新J1のみで校内を回るオリエンテーリングでした。２日目は、講堂での礼拝、みんなで踊るDansen を行い、クラスごとにジグソーパズルを作り、メディテーションキャンドルサービスの後、ジグソーパズルのピースに６年間の目標を書いて終わります。

２日間は、新J1やカウンセラーの笑顔を見る機会が多く、約半年間の苦労を全て浄化してくれるようで、少し気持ちが張り詰めていた私も、本当に楽しめました。不安な新J1を後押しするJ1デイキャンプという素敵な行事が参加者みんなに愛され続けることを祈っています。

2026年度　体育祭報告

６月４日に中高部の体育祭が開催されました。早めに来た台風の影響で２日延期になっての開催でした。風が暑さもさらって行ってくれたのか生徒たちは日差しの抑制されたちょうどよい天候の下、元気に走りまわり存分に体育祭を楽しみました。

本校の体育祭はJ1からS3までが縦割り約140名の６組対抗で行われます。下級生にとっては上級生との距離がぐっと縮まる行事です。各々が自分のモデルとする女性を見つける機会となっています。

企画・運営はJ3からS3の有志約70名で構成される体育祭企画実行委員会（体企）が行います。体企は体育祭終了後すぐに組織され、年度をまたいで１年間かけて体育祭の準備を行います。今年度の体企も高い責任意識を持って働き、素晴らしい体育祭を作り上げてくれました。

さらに体育祭の審判や用具の準備は体育部が行います。各クラスの総部として選出された体育部も縦の繋がりを持ちながらそれぞれの仕事に責任を持って行っています。

組、体企、体育部がそれぞれ自分たちの仕事に誇りを持って取り組んでいます。利害が衝突した時にはじっくりと話し合って問題を解決してきました。こうした営み一つ一つが自己も他者も尊重しながら共に生きていく知恵を育んでいます。対立や分断が課題となる世の中で、希望の光を見出す思いのした体育祭でした。この体育祭の実現のために学院の方々に多方面にわたって助けていただきました。改めて感謝申し上げます。

（体育祭企画実行委員会顧問）

2025年度　中高部教職員研修会 報告
さすまたを使った実践訓練

2025年８月26日に中高部の教職員研修会を行いました。午前中は、担当者が夏期休暇中のリベラルアーツ・プログラム等、各行事の報告をしました。続いて、中高部での今後のクラブ活動の在り方について、森谷部長からの発題がありました。その後、グループに分かれて、各班分団討議を行いました。教員の働き方、公立学校と同じく地域移行ができるのかどうか等、様々な意見が見られて全体発表の場で共有することができました。

午後は、不審者対応のための危機管理プログラムとして、防犯教室を開きました。今回は本学院警備担当の東洋テックセキュリティサービスから講習を受けました。以前警察にもお勤めだった講師の方から、最近の犯罪情勢についてうかがったあと、前半はさすまたを使う訓練をしました。私たち教職員は、校内のさすまたの所在は知っていたものの、実際に持ってみるなどしたのは初めてでした。さすまた一本では不審者に対応するには不十分なこと、武器として使うのではなく、複数本・複数人数で制圧のために使うことなど、実地的なことを教えていただきました。実際、体格差のある教員同士で組み、小柄な教員が不審者役をしたときでも、さすまた一本で取り押さえようとすると簡単に拘束から抜け出されてしまいました。しかし、４～５人の女性教員がそれぞれさすまたを持ち、男性講師の方に立ち向かった場合、協力して取り押さえることができました。後半は徒手による護身術訓練を行いました。体のさばき方、組手からの抜け出し方などを教えていただきました。教職員同士でペアになり、何度も訓練を行い、体で動きをおぼえるための良い機会となりました。本学院には警備員が常駐してくださっていますが、昨今の報道でも学校園への不審者の侵入といったことがよく取り上げられています。そのため、今回のような実践訓練で体を動かしてみる、また教職員全員で対処方法を共有しておく、といった実習は今後の危機管理に繋がると感じました。

（教職員研修会係）

2025年度　芸術鑑賞会

２学期始業日翌日の８月28日、芸術鑑賞会を実施しました。今年度は宝塚大劇場において月組公演『GUYS AND DOLLS』（ポスターの写真をご参照ください）を、中高生徒と教員そして100名の保護者の皆様、あわせて約1080名の２階貸切で観劇しました。宝塚歌劇は長い歴史を持ち、本校としても沿線芸術としてなじみ深い舞台ですが、これまで鑑賞会として訪れたことはありませんでした。しかし女性たちが力を合わせ、生き生きと１つの作品を作り上げ、華やかに、そしてパワフルに演じるその世界は、本校の体育祭や文化祭などの行事や日常にも通じるものがあり、共感して観ることができたのではないでしょうか。特に今回の演目『GUYS AND DOLLS』はブロードウェイ発信のミュージカルコメディであり、救世軍による布教伝道とギャンブラーたちとの対比が作品の大きなモチーフであることから、本校の生徒には親しみやすい内容だったと思います。

幕が下りたのち、宝塚歌劇には珍しく、本場に準じてオケピの皆さんがフィナーレを演奏し、その際にも２階席からは手拍子が鳴りやまず、いつもより活気ある公演だったとのちに報告されました。多様な舞台芸術のひとつとして、そして最も身近な文化のひとつとして、１人でも多くの生徒が宝塚歌劇に興味をもっていただけたなら幸いです。

（中高部教諭）

2025年度　S 校内大会

2025年度のS校内大会は、７月７日に実施しました。種目は例年通り、ソフトボール、バレーボール、バスケットボール、卓球、リレーの５種目です。昨年好評だった「大縄跳び」も引き続き行いました。毎年恒例ですが、下剋上を狙う下級生とそうはさせまいとする上級生との“仁義なき戦い”や、同級生同士の白熱した試合があり盛り上がりを見せました。

天気は快晴でしたが、湿度が高く、日差しもかなり強かったです。外で行うには危険な気温のため、次回以降は屋内競技のみに変更することを検討したいと思います。

（S体育部顧問）

2025年度　J校内大会

2025年度Ｊ校内大会が７月９日に行われました。実施種目はドッジボール、卓球、リレーです。各種目フェアプレーの精神のもと熱戦が繰り広げられ勝敗にかかわらず皆が楽しんでいる姿が印象的な校内大会となりました。

【結果】

総合優勝　Ｊ3C
２位　　Ｊ3D
３位　　Ｊ3A

（Ｊ校内大会係）

2025年度　中高部 夏休み中の行事

リーダーシップトレーニングキャンプ
日　程：７月30日～８月１日
場　所：西宮市立山東自然の家
概　要：レクリエーション、カウンセルファイヤー、野外炊飯等
参加者：49名
引率教員：５名

リベラルアーツプログラム・長島訪問
日　程：７月17日～18日
場　所：岡山県　国立療養所長島愛生園
概　要：園長先生の講演、歴史館と園内の見学、人権についての話し合い
参加者：29名
引率教員：３名

リベラルアーツプログラム・白浜訪問
日　程：７月22日～23日
場　所：白浜バプテストキリスト教会（白浜レスキューネットワーク）
概　要：バーベキュー（教会スタッフ・関係者と共同して準備）、藤藪牧師の講話、藤藪牧師を囲んでの様々なテーマでの語らい
参加者：25名
引率教員：３名

カナダアカデミックスタディツアー
日　程：７月20日～８月３日
場　所：カナダ　トロント大学トリニティ校
概　要：大学の学生寮に滞在、CISS Toronto の語学プログラム、観光や参加者交流のアクティビティー
参加者：24名
引率教員：２名

（中高部教諭）

2025年度　文化祭

2025年度の文化祭は「翠」というテーマで行われました。例年通り、講堂やコムホールでの舞台発表、各クラス・学年による展示、クラブや有志団体による展示、文企主催のイベントや、構内随所に散りばめられた装飾など、生徒たちがそれぞれに趣向を凝らし、練習や準備に励んだ成果が存分に発揮された２日間となりました。

本校の文化祭は、文化祭企画実行委員会（文企）のメンバーによって運営されています。文企は前年度の文化祭後すぐに翌年度のメンバーを募集し、新Ｓ３の幹部が中心となって１年かけて準備をしていきます。文化部や各総部、教職員、その他学院の関係各所との濃密な連携も必須です。多岐にわたる細やかな準備は、先輩から後輩へと連綿と引き継がれる経験や資料によって支えられています。華やかな学校行事を一から作り上げることにやりがいを感じ、Ｊ３から長く委員を続ける生徒も多くいます。毎年、生徒や教員から募った前年度の反省を分析し、試行錯誤を重ねて、より良い行事にすべくメンバー全員が力を合わせています。

2025年度は、他の学校行事との兼ね合いでこれまで２泊だった夏休みの合宿が１泊２日に短縮となり、生徒たちは文化祭の質を保ちながら作業効率を高めるために知恵を絞って努力をしてくれました。思い描いていたような準備期間とは異なる状況に、不安や負担が大きかったことと思いますが、一人ひとりが責任をもって自らの役割を全うしてくれました。生徒たちの柔軟な創造力と協調性が、短期集中の準備を可能にしてくれたと感じます。

その他にも、文化祭の幕開けを飾るオープニング動画用に講堂のプロジェクションマッピングを自作したり、生徒保護者以外の来場者の利便性向上のためにデジタルパンフレットをホームページ上で公開したり、各展示のオンライン待ち時間表や3D構内図を作成したりと、新たな取り組みにも挑戦しました。

また、長引く酷暑の影響で体調不良を訴える生徒が増えていた文化祭最後のイベント「エンディング」を屋外で安全に行うため、施設課や事務室の職員の皆様、養護教諭や理科の先生方の助けもいただきながら熱中症対策について何度も議論を重ねました。採用に至らなかった対策も含めて何通りも方法を検証し、夏休みには実際にグラウンドに出て散水の実験も行いました。例年通りの休息所や霧吹きの用意に加えて、クラスごとに割り当てていた座席を緩やかな区分に変更し、木陰やテントも活用して、皆が安全にイベントを楽しめるように工夫しました。当日は雨予報を跳ね返し、穏やかな風に包まれて全ての演目を無事に終えることができ、感無量でした。

文企の生徒たちは、他校では教職員が行うような作業も自分たちの手で担います。ときにはハプニングも起こりますが、それらに対応する中で成長し、自然と協力し合うことを学びます。パンフレット作成のための印刷業者とのやり取り、校外用文化祭での受付方法や来場客の動線と誘導の検討、各展示団体への備品貸し出しや机椅子の移動、有志団体の舞台出演オーディションの運営など、目に見えない準備が数多くあり、全てを生徒主体で行っています。

文企の中心となるのは受験を控えたＳ３生徒ですが、１学期には多くの生徒たちが情熱を燃やす体育祭もあり、時間とエネルギーを上手にやり繰りしなければなりません。近年は夏休みに短期留学や課外イベントに参加する下級生も増え、文化祭準備の時間をいかに確保するかが課題となっています。守るべき伝統と、移り行く時代に合わせて更新していく部分とをバランスよく統合し、毎年新たな表情を見せるのが本校の文化祭の魅力だと感じています。

文化祭の開催にあたり、文企メンバーの皆さんの献身的なお働きはもちろんのこと、警備員の方々、施設課を始めとする学院の職員の皆様、中高部の教職員の皆様から多大なご支援をいただきました。近隣の皆様からも寛大なご理解をいただき、感謝申し上げます。ありがとうございました。

（2025年度文化祭企画実行委員会顧問）

2025年度　中高部 秋の行事

Ｊ１　遠足
日　程：10月10日
コース：渦の道、大塚国際美術館
概　要：見学
参加者：140名
引率教員：８名

Ｊ２　遠足
日　程：10月10日
コース：近江八幡市街、琵琶湖博物館
概　要：ヴォーリズ関連施設の見学と現地ガイドによる解説、博物館見学
参加者：142名
引率教員：９名

Ｊ３　小旅行
日　程：10月８日～10日
コース：高山、金沢、福井
概　要：見学、テーブルマナー講習とさるぼぼ作り体験、伝統工芸体験、高山・金沢班別研修
参加者：141名
引率教員：７名

Ｓ１　一泊研修
日　程：10月９日～10日
コース：生野銀山、神鍋山、玄武洞、城崎温泉
概　要：見学、話し合い
参加者：134名
引率教員：６名

Ｓ２　修学旅行
日　程：10月６日～10日
コース：長崎、島原、高千穂、阿蘇、大宰府
概　要：見学、平和学習、長崎班別研修、レクリエーション
参加者：143名＋留学生２名
引率教員：７名

Ｓ３　遠足
日　程：10月10日
コース：有馬
概　要：自由散策、昼食
参加者：125名
引率教員：６名

（中高部教諭）

2025年度　Ｓ２修学旅行

10月６日から10日まで、４泊５日で九州に行ってまいりました。

１日目のテーマは平和学習です。まず浦上天主堂で礼拝をまもり、その後長崎原爆資料館を見学しました。２日目は班別自主研修として、軍艦島、九十九島、ハウステンボス、長崎市内自由散策などを楽しみました。３日目は、島原城を見学した後、埋没家屋保存公園で火砕流の被害の様子を学習し、午後にはクルージングでイルカウォッチングを楽しみました。夜には、修学旅行のハイライトである「食べナイトフォーエバー」を開催。これは、今年の新たなイベントとして旅行委員が考案したレクリエーションです。みなドレスアップして、パーティー形式でビュッフェを楽しみながらレクリエーションを並行して行いました。出演した有志団体をはじめ、進行表を書道部が準備し、照明は文化部が担当するなど、学年全員がお互いの賜物をいかしながら、修学旅行でしか経験できない特別な時間を過ごすことができました。４日目は、通潤橋と五老ヶ滝を経て、高千穂峡を見学。その後、天岩戸神社を見学し、九州の自然と日本神話に触れる時をもちました。夜には夜空を観察し、満天の星空と流れ星を楽しみました。最終日は阿蘇大観峰、太宰府天満宮を見学して、博多駅から帰路につきました。

天候に恵まれ、体調を大きく崩す生徒もなく、無事に全行程を予定通り進めることができました。豊かな交わりと学びの時となりましたことを、感謝をもって報告申し上げます。

（2025年度Ｓ２Ｂ担任）

2025年度　キャンパス見学会

日時：11月１日　10時～15時
参加者：491組　1050名

プログラム：
校内自由散策、模擬授業（英語・理科）、
個別相談、受験教室公開、クラブ活動見学、
ワークショップ、キャンパスツアー、
礼拝体験など

天候にも恵まれ、美しいキャンパスをご覧いただけた。キャンパスツアーやクラブ活動見学、ワークショップなどで生徒の様子を直接見ていただくことができ、好評だった。来場者は昨年度（272組587名）から大幅に増加した。多数の来校者に感謝している。

（2025年度校務課長）

2025年度 「秋の子ども会」報告

日　時：2025年11月22日 10:00～15:00
場　所：神戸女学院中高部葆光館・タルカット館・
グラウンド
参加者：神戸真生塾の小学生12名
神戸女学院高等学部生32名
内　容：
10:00　子どもたちと高校生が神戸女学院に集合
10:00～12:00　室内で工作などして遊ぶ
12:00～12:40　昼食
＊高等学部自治会の生徒手作りのサンドウィッチ
12:40～13:40　グラウンドにて遊ぶ
13:40～15:00　おやつ・メッセージ交換
＊おやつは高等学部自治会の生徒手作りのみかんゼリー
15:00　解散

（2025年度高等学部役員会顧問）

2025年度　中高部冬山スキー

日　程：12月20日朝出発～12月23日夜到着
場　所：志賀高原／チウホテル
概　要：インストラクターによるスキーの講習
参加者：生徒45名
　　引率教員５名

（中高部体育科教諭）

2025年度　卒業生シリーズ礼拝

２月３日　卒業生（141回）
２月４日　卒業生（129回）
２月５日　卒業生（140回）

（中高部チャプレン）

2025年度　マロニエ賞報告

マロニエ賞とは、兵庫県下の知事所轄の私立学校に在籍する園児・児童・生徒及び教職員等に対し、スポーツ、文化等の各分野で顕著な成績をあげた人や団体に対し、知事より表彰される賞です。

2025年度は、令和７年12月23日、兵庫県私学会館大会議室で授賞式が行われました。本校からは下記の２名の生徒が受賞いたしました。

高校３年生
　第18回国際地学オリンピック
　銀メダル（文部科学大臣賞）
中学３年生
　Rovere d’ Oro Prize 2025 First Prize
　in Category Final

（中高部部長）

第60回中高部長賞
第41回文化・スポーツ賞

賞の名前：中高部長賞
概要
中高部長賞とは、中学部と高等学部に分けて、すべてのクラブの１年間の活動資料（クラブノートの内容や活動状況、またクラブ部長生徒や顧問教員による自己評価）に基づき、中高部教員で組織された選考委員会で選考されたクラブに授与する賞です。高等学部では昨年度より１学期の終業日に、中学部では２学期の終業日に授与しています。

Ｊクラブ：バレーボール部、ESS 部、演劇研究部
Ｓクラブ：コーラス部、書道部、ブラスバンド部

賞の名前：文化・スポーツ賞
概要
文化・スポーツ賞とは、前年度の１月末からの１年間を通し、中高部の代表として各大会等に参加し、西宮・阪神地区で１位、また兵庫県・関西・近畿・全国、世界で３位以内の賞を獲得した中から、中高部長や中高部教員で組織された選考委員会で選考された個人や団体に授与する賞です。

文化賞：
・あけてニッコリ！わくわくお弁当コンテスト
　兵庫県知事賞（第１位）
・第18回イタリアコンコルソ　MusicArte
　カルチャー部門中学生の部優勝
・第41回成田山全国競書大会
　読売賞（全国２位相当）
・第４回日本天文学オリンピック本選、
　第18回天文学・天体物理学オリンピック代表選抜
　金賞
・全国高等学校総合文化祭囲碁部門
　兵庫県代表決定戦　優勝
・第49回文部科学大臣杯全国高等学校
　囲碁選手権大会兵庫県大会　第３位
・第65回全国学生書道コンクール
　準大会賞（全国２位相当）

・MPW School and Colleges エッセイコンテスト
　１位、３位
・第49回文部科学大臣杯全国高等学校
　囲碁選手権大会兵庫県大会団体戦優勝
・第30回全日本高校・大学生書道展
　優秀賞（第３位相当）
・第41回読売書法展　入選
・第７回オンライン中学生英語プレゼンテーション
　コンテスト　最優秀賞
・令和７年度阪神 ESS ユニオン
　シナリオ・リーディング・コンテスト　３位
・第49回　全国高等学校総合文化祭かがわ総文祭
　2025囲碁部門女子個人戦　準優勝・文化庁長官賞
・第18回国際地学オリンピック大会個人の部
　ESP の部　金メダル、
　ITFI の部　金メダル、銀メダル
・近畿総文囲碁部門兵庫県予選　優勝
・NICT ネクストアントプレナーズピッチ
　NICT 賞（最優秀相当）
・高円宮杯第77回全日本中学校英語弁論大会
　兵庫県予選大会１位入賞
・第74回チャーチル杯争奪全国高等学校生
　英語弁論大会第２次予選第１位
・税の書道西宮・宝塚租税教育推進協議会賞
・「税に関する書道」
　西宮納税貯蓄組合連合会会長賞
・第20回全国高校生英語ディベート大会 HEnDA
　兵庫県予選会 Best Debater ３位
・第33回薫英杯女子中学生英語スピーチコンテスト
　Advanced の部優秀賞（２位相当）
・第49回兵庫県総合文化祭囲碁部門近畿選手権
　兵庫県代表決定戦女子個人戦優勝
・第49回兵庫県総合文化祭囲碁部門近畿選手権
　兵庫県代表決定戦女子団体戦優勝
・第49回兵庫県高等学校総合文化祭書道展 兼
　第71回兵庫県高等学校書道展全国総文推薦賞
・中学生の「税についての作文」コンクール
　西宮税務署長賞
・「税についての作文」コンクール　西宮市長賞
・「税についての作文」コンクール
　西宮納税貯蓄組合連合会会長賞
・第45回近畿高等学校総合文化祭囲碁部門
　女子個人戦　優勝
・第58回兵庫県私学総連合会　私学の書展
　書遊賞（第３位相当）
・第14回近畿高等学校囲碁選手権大会女子個人戦
　優勝
・第14回近畿高等学校囲碁選手権大会女子団体戦
　優勝

スポーツ賞：
・第12回兵庫県中学校冬季テニス大会団体戦
　第３位
・第69回兵庫県中学校総合体育大会テニス競技
　団体戦３位
・第69回兵庫県中学校総合体育大会テニス競技
　ダブルス３位

（2025年度中高部生徒課）

目　　次

ご挨拶…… 1
院長就任の辞…… 2
本学のこれから…… 3
神戸女学院からの問いかけ…… 3
KCC だより …… 4
小林季子記念館献堂式…… 5
中高部長就任式…… 5
第15代院長就任式…… 6
2026年度 愛校バザー報告 …… 7
創立150周年記念募金 …… 10
2025年度 神戸女学院家庭会幹事会報告 …… 10
チャプレン室報告…… 10
2026年度 年間標語 …… 12
大学報告
大阪・関西万博関係
学生４名が研究発表！ …… 13
モーツァルテウム合唱プロジェクト…… 13
神戸女学院の森が自然共生サイトに認定…. 14
西宮市市制施行100周年記念式典における学生の参画… 14
ジェンダーインスティチュート設立40周年記念特別講演会… 15
宝塚カレーグランプリ参加…… 15
学部報告…… 16
2025年度 神戸女学院大学図書館報告 …… 28
2026年度 大学・大学院入学試験結果概要… 29
2025年度 進路状況報告 …… 29
2026年度 在籍学生数 …… 30
2025年度 留学・海外研修、2026年度 前期受入れ留学生報告… 31
2025年度 夏期インターンシップ実施報告… 31
2025年度 クローバー賞表彰式 …… 32
2025年度 めぐみ会賞表彰式 …… 32
2025年度 研究所活動報告 …… 51
2025年度 ジェンダーインスティチュート活動報告… 52
中高部報告
第18回国際地学オリンピック大会（IESO)… 54
第18回国際天文学・天体物理学オリンピック大会
Bronze Medal …… 54
高円宮杯を経験して…… 55
NICT ネクストアントレプレナーズピッチ… 55
第14回近畿高等学校囲碁選手権大会 女子団体戦 優勝… 56
第35回 日本クラシック音楽コンクール 全国大会 入選… 56
第27回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA
ショパニストＡ部門 全国大会金賞 …… 57
神戸女学院で数オリと向き合って…… 57
2026年度 中学部入学試験結果報告 …… 60
2026年度 春の遠足 …… 61
2026年度「春の子ども会」報告…… 61
2026年度 Ｊ１デイキャンプ報告…… 62
2026年度 体育祭報告 …… 62
2025年度 中高部教職員研修会 報告…… 63
2025年度 芸術鑑賞会 …… 63
2025年度 Ｓ校内大会 …… 64
2025年度 Ｊ校内大会 …… 64
2025年度 中高部 夏休み中の行事…… 64
2025年度 文化祭 …… 65
2025年度 中高部 秋の行事…… 66
2025年度 Ｓ２修学旅行…… 66
2025年度 キャンパス見学会 …… 67
2025年度「秋の子ども会」報告…… 67
2025年度 中高部冬山スキー …… 70
2025年度 卒業生シリーズ礼拝 …… 70
2025年度 マロニエ賞報告 …… 70
第60回中高部長賞、第41回文化・スポーツ賞… 70

下記ページは個人情報保護等のため掲載しておりません。ご了承ください。
8, 26, 33, 43, 44, 49, 50, 58, 59, 68